

東京放射線

2011年5月

Vol.58 No.684



社団法人 東京都放射線技師会

<http://www.tart.jp/>

巻頭言

放射線の専門家として 葛西一隆

会告

第61回社団法人東京都放射線技師会定期総会
市民公開講座

第2回日暮里塾ワンコインセミナーのお知らせ

第43回さめこまかな生涯教育

総会資料

第61回定期総会議案

都内避難所サーベイボランティア派遣の経緯及び経過

東京ビッグサイト避難所サーベイ派遣報告 木暮陽介

福島原発事故による住民サーベイ派遣報告 市川重司

2011年
MAY

CONTENTS

目次

巻頭言 放射線の専門家として(安心・安全 技師会としてできること)……副会長 葛西一隆	4
診療放射線技師業務標準化宣言	5
会告1 第61回社団法人東京都放射線技師会定期総会開催の件	6
会告2 市民公開講座	7
会告3 日暮里塾ワンコインセミナーのお知らせ……學術部	8
会告4 第43回きめこまかな生涯教育……學術部	10
会告5 平成22年度學術奨励賞	11
公益法人認定申請に係る第2回補正予算の報告	12
第61回定期総会資料	15
・第2号議案 平成22年度決算報告(案)	
・第3号議案 平成22年度監査報告(案)	
・第1号議案 平成22年度事業報告(案)追加事項	
都内避難所サーベイボランティア派遣の経緯及び経過	38
東京ビッグサイト避難所サーベイ派遣報告……木暮陽介	39
福島原発事故による住民サーベイ派遣報告……市川重司	43
こえ	
・スモールグループディスカッション(SGD)に参加して……鈴木正晴	45
・第9回ペイシエントケア學術大会開催される……柴山豊喜	46
NEWSひろい読み	47
バイブライン	
・看護フェスタ	49
・第28回中央医療技術専門学校同窓会総会・中央放射線学会のご案内	50
第11回理事会報告	51
平成23年3月期会員動向	52
研修会申込書	55

平成23年度 スローガン

一、チーム医療の推進
二、地球環境と調和した画像診断技術の向上
三、生涯教育・専門教育の推進

巻頭言



放射線の専門家として (安心・安全 技師としてできること)

副会長 葛西一隆

東日本大震災において被災された方々に心からお見舞いを申しあげ、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申しあげます。

過去には、十勝沖地震・阪神淡路大震災・新潟中越沖地震といろいろな地震災害がありました。しかし今回は、地震もさることながら津波、さらには原発事故が重なり、被害を大きくし復興の妨げとなっています。復旧には相当の時間がかかりますが、必ず復興することを信じて、皆で力を合わせて“がんばろう！日本”の掛け声とともに、今できることから活動していきたいと考えています。

今回の放射線災害に際し、技師会もいち早く行動を開始しました。地震直後に地震災害対策委員会を立ち上げ、サーベイヤーの募集を開始し、現地福島県への派遣や都内避難所でのサーベイを開始しました。

私たちは放射線のプロであり、放射線（放射能）に対する必要な知識と技術を結集し、無用な混乱を起こさないように、被災者の皆様の不安を取り除くことに力を入れてきました。少しでも安心・安全・信頼を測定値と共に伝えなければいけません。このような活動が実際の行動を伴った広報活動ではなかったかと考えます。

ただ、マスコミの報道で「X線撮影やCT検査による被ばくと比較して線量が少ないから安心である」というのは逆に医療被ばくに対しての不安を与えかねない面も危惧しています。比較できるものが無い、もしくは原爆との比較はあまりにも強烈な印象を与えるため仕方がないのかもしれませんが、医療被ばくは明確な利益や理由があるためであり、許容限度とは別に考えることになっています。医療の現場では検査での被ばく量の明示とか、検査に対する不安から検査拒否なども出てくることも予想されます。

私たち放射線技師は、自施設において、相談・カウンセリングのマニュアル化と被ばく線量の把握に努め、求められた場合、明確に返答する体制の強化が必要ではないかと考えます。

原発事故では、放射性物質の飛散・放出が農畜産物や水道水を汚染したとクローズアップされました。この目に見えない放射線を正確な情報のもと、どのようにして安心・安全・信頼をアピールしていけばよいのでしょうか。特に放射能のベクレル (Bq)、放射線被ばくのシーベルト (Sv)、吸収線量グレイ (Gy) また、単位のメガ (M)・キロ (K)・ミリ (m)・マイクロ (μ) が入り乱れ理解しづらい点もありました。今後、技師会の広報活動として、数値・単位を解かり易く、一般の人にできるだけ理解しやすい方法で知らせていくことも必須ではないかと考えます。技師会として安心・安全・信頼を得られるべく活動しましょう。

診療放射線技師 業務標準化宣言

いま我が国では「安心して安全な医療の提供」が国民から求められている。そして厚生医療の基本である「医療の質の向上」に向けて全ての医療職種が参加し、恒常的に活動をする必要がある。

私達が携わる放射線技術及び医用画像技術を含む診療放射線技師業務全般についても、国民から信頼される普遍的な安全技術を用いて、公開しなくてはならない。そして近年、グローバルスタンダードの潮流として、EBM（Evidence Based Medicine）、インフォームドコンセント、リスクマネジメント、医療文化の醸成、地球環境保全なども重要な社会的要求事項となっている。

（社）東京都放射線技師会では、『国民から信頼され選ばれる医療』の一員を目指し、診療放射線技師の役割を明確にするとともに、各種業務の標準化システム構築を宣言する。

診療放射線技師業務標準化には以下の項目が含まれるものとする。

- 1 . ペイシエントケア
- 2 . 技術、知識の利用
- 3 . 被ばく管理（最適化 / 低減）
- 4 . 品質管理
- 5 . 機器管理（始終業点検 / 保守 / メンテナンス）
- 6 . 個人情報管理（守秘 / 保護 / 保管）
- 7 . 教育（日常教育 / 訓練 / 生涯教育）
- 8 . リスクマネジメント
 - ～ 患者識別
 - ～ 事故防止
 - ～ 感染防止
 - ～ 災害時対応
- 9 . 環境マネジメント（地球環境保全）
- 10 . 評価システムの構築

2002年7月4日

（社）東京都放射線技師会
会長 中澤 靖夫

第61回 (社)東京都放射線技師会定期総会 開催の件

本会定款第21条に基づき下記の通り、第61回社団法人東京都放射線技師会定期総会を開催いたします。

記

開催日	平成23年5月28日(土)
受付	午後1時30分～
総会	午後3時15分～
会場	笹川記念会館 〒108-0073 東京都港区三田3-12-12 tel. 03-3454-5062(代)
交通	JR田町駅(三田口)より徒歩8分 都営地下鉄三田線 三田駅より徒歩6分 都営地下鉄浅草線 泉岳寺駅より徒歩3分
議事	第1号議案 平成22年度事業報告(案) 第2号議案 平成22年度決算報告(案) 第3号議案 平成22年度監査報告(案)

(社)東京都放射線技師会
会長 篠原 健一

お願い

1. 「東京放射線」4月号に「第61回定期総会議事の表決について」及び「委任状」を掲載いたしました。総会に出席できない方は、必要事項を記入の上、必ずご投函お願いします。
2. 定期総会議事について書面表決された方は、「委任状」への記入は不要です。
3. ご出席の際は、必ず総会資料である会誌「東京放射線」4月号、ならびに5月号を持参してください。
4. 本会告をもって案内状と致します。多数の会員の出席をお願いいたします。

市民公開講座

「スローフードと地球環境」

講師：佐々木俊弥先生

日 時：平成23年5月28日（土）午後2時00分～午後3時00分

受付 午後1時30分～

会 場：笹川記念会館 〒108-0073 東京都港区三田 3-12-12 TEL.03-3454-5062（代）

講 師：



佐々木俊弥（ささきとしや）先生

- ・スローフードジャパン副会長
- ・スローフードすぎなみTOKYO代表

参加費：無 料

市民公開講座終了後、引き続き定期総会を開催します。

交 通：JR田町駅（三田口）より徒歩8分

都営地下鉄三田線三田駅より徒歩6分

都営地下鉄浅草線泉岳寺駅より徒歩3分

案内図



第2回日暮里塾ワンコインセミナーのお知らせ

「新卒入会セミナー」

このたび新しい事業として「日暮里塾ワンコインセミナー」を開催いたします。
第2回も前回と同様、新卒者・非会員の方を対象として技師会を広く知っていただきたいという趣旨のため、参加費は無料です。

記

日 時：第2回 平成23年5月19日（木）19時00分～20時30分
第1回と同じ内容で行います。

場 所：技師会研修センター
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

参加費：無料

申込方法：次ページのFAX用紙にてお願いします。

内 容：テーマ 「新卒入会セミナー」

1. 技師会概要

技師会活動

・アウトライン

野口幸作 庶務理事

・各部活動状況

市川重司 学術理事

2. ミニ講演「技師会費って本当に高い？」 大室正巳 渉外理事

申し込みは次ページの専用FAX用紙を使用してください。

定員に達したときのみお断りのご連絡をしますが連絡が無い場合は参加受理となります。

当日参加も可能ですが事前に電話等の連絡をお願いします。

問い合わせ：(社)東京都放射線技師会事務所

TEL/FAX 03-3806-7724

学術・教育理事 市川重司

職場（公立福生病院） 042-551-1111（1500）

Address gakujiu@tart.jp

第2回 日暮里塾ワンコインセミナー参加申込用紙

申込FAX 03-3806-7724 (東京都放射線技師会)

ふりがな	
氏名	
施設名	
住所	〒
連絡先	TEL Adress
備考	

案内図 JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分



第43回きめこまかな生涯教育 テーマ「上部消化管X線造影検査」

講師 高嶋 優子氏 東京都がん検診センター

消化管X線造影検査は、検査中に異常所見を素早く判断できる高度な知識と関心部位の適切な表現を可能とする造影技術が必要であります。さらに、撮影後の読影能力、レポート作成能力もわれわれ診療放射線技師に求められています。

今回の「きめこまかな生涯教育」では、上部消化管X線造影検査を取り上げ、放射線技師に必要な撮影技術、読影能力およびレポート作成手法の理解を目的に企画しました。

プログラム

1日目：上部消化管撮影の撮影技術 基本

基準撮影法1を基本に話すが、ドックなどの基準撮影法2も加える。
基本的な撮影方法の解説。撮影のポイント。接遇など。

2日目：上部消化管撮影の撮影技術 応用（胃型別追加撮影）

撮影応用編。胃の形による撮影法（牛角胃、瀑状胃など）。病変を見つけた時の追加撮影。
動画を使って解説。

3日目：読影用語の解説とレポートの作成方法

隆起や陥凹はどうやって見えるのか？などを解説。読影の手順。レポートの書き方。当センターのドックの読影レポートを例にして、実際のがん症例の読影レポートを書いて実習し、病理結果も供覧する。

記

日 時：平成23年6月8日（水）～10日（金） 午後7時00分～8時30分

会 場：（社）東京都放射線技師会研修センター

アクセス：「JR日暮里駅」

定 員：30名程度（先着順）

受 講 料：会員3,000円，非会員10,000円（当日徴収）

申込方法：東放技ホームページ <http://www.tart.jp/> の研修会申込または会誌巻末の研修会等申込み用紙を使用してFAXにてお申し込みください。

問い合わせ：東放技事務所 TEL・FAX 03-3806-7724

gakujitu@tart.jp 学術教育理事 市川重司



平成22年度学術奨励賞

演題名：末梢血管における非造影MRIの検討

～脂肪抑制法を併用した高速SE法を用いた末梢血管描出～

第27回放射線技師総合学術大会 セッションMRI2 演題番号55

発表施設：昭和大学病院

発表者：野崎 武

野田主税¹⁾、佐藤久弥¹⁾、岡部圭吾¹⁾、石田秀樹¹⁾、崔 昌五¹⁾、

斉藤 肇²⁾、中澤靖夫³⁾

1)昭和大学病院、2)昭和大学藤が丘病院、3)昭和大学統括放射線技術部

【選考理由】

造影剤を用いることなく血管を描出する非造影MRAは、様々な技術が開発され実用化されています。非造影MRAの画質向上には使用者側の研究、工夫が大きく寄与しています。今回の報告は、高速SE法を血流の緩やかな末梢血管に応用したものであります。背景信号を抑制するための最適な脂肪抑制法を検討し、高速SE法と脂肪抑制技術の一つであるSPAIR法の組み合わせが最適であるとの結論を得ています。

MRIの可能性を引き出す有用な試みであり、今後のさらなる検討による適応範囲の拡大を期待し、学術奨励賞を贈ります。

東日本大震災支援募金 ご協力を

(社)東京都放射線技師会

2011年3月11日に起きた東日本大震災により、被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。

(社)東京都放射線技師会では、震災の被害が甚大かつ広範囲に及んでいることから被災地を支援するために、支部・地区研修会等を含めた東放技事業において支援募金を呼び掛けます。また、郵便振替、銀行振り込みについても検討しております。

寄せられた支援金は、(社)日本放射線技師会と連携を図り被災地域に寄託します。

公益法人認定申請に係る第2回補正予算の報告

会員の皆様には、平素より格別のご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、現在準備を進めている公益社団法人への移行申請に伴い、当年度より財務諸表の作成基準として新しい公益法人会計基準を採用したことにより、予算につきましても次の補正を行いました。

(1) 予算の計上科目を新公益法人会計基準の科目体系に合わせて変更

これまでは事業費の区分の中に中科目を設け分類していましたが、それを改めています。

公益法人の移行申請にあたり、新たな会計区分（公益目的事業会計、収益事業等会計、法人会計）を採用しています。

- ・公益目的事業会計は「体験活動他」事業になります。
- ・収益事業等会計は、更に「会員のための生涯教育事業」「相互扶助・表彰・親睦」の2つの事業に細分しています。
- ・法人会計は、法人全般の管理運営にかかわる収益・費用を計上する区分です。

(2) 事業費と管理費の按分比率を見直し

今回の補正予算では、前回予算に比べ全体的に管理費の予算計上額が減少し、その分事業費の計上額を増加させています。これは、新しい科目体系に変更したことと併せて、これまで管理費に計上してきた予算額の中にも、事業費の性格をもつ部分が相当程度含まれていると考えられることから、科目ごとに事業費と管理費の按分比率を見直したことになります。

(3) 前回の補正予算から追加計上している金額

親睦会事業収益1,800,000円、会議費1,800,000円（相互扶助・表彰・親睦）を追加しています。これまで、親睦行事の収益と費用は、これを相殺して差額を収益又は費用に計上していましたが、より明瞭に表示するため、総額表示（いわゆる両建計上）を行うことにしたものです。

(4) 指定正味財産と一般正味財産の区分

新公益法人会計基準では、正味財産を指定正味財産と一般正味財産に区分して表示することが求められます。指定正味財産とは、寄付者等の意思により当該資産の用途、処分又は保有形態について制約が課せられているものをいいます。本会においては、新事務所設立拠出金活動で会員、職域団体、関係団体、業界関係者からご協力をいただいた寄付金12,895,583円が新事務所の購入に充てる目的で拠出された資産であることから、これを指定正味財産とし、残余を一般正味財産として、期首残高を区分しています。

今後、東京都との打ち合わせにより、この会計区分が変化する可能性もありますが、現段階ではこの会計区分により申請・許可を得る方針です。

第2図 修正予算書

平成23年4月1日から平成23年3月31日まで

科目	公益目的事業会計		収益事業等会計		法人計	第2図 修正予算合計 (A)	前年度予算 (B)	(単位:円)
	公益目的事業 活動	合計	役員報酬 相互扶助	共通				
1 一般行政経費削減の要								
1 経費削減の要								
(1) 経費削減								
① 受取振替								
正会員受取金	14,190,000	0	608,000	0	14,798,000	20,250,000	0	0
賛助会員受取金	1,020,000	0	60,000	0	1,080,000	2,500,000	0	0
② 事業収益								
研修会事業収益	2,000,000	1,000,000	1,800,000	0	3,800,000	3,000,000	0	1,800,000
高校会事業収益	0	0	0	0	0	0	0	0
生涯学習収益	30,000	0	0	0	30,000	30,000	0	0
③ 受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
④ 受取補助金	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤ 雑収益	16,000	0	0	0	16,000	16,000	0	0
正会員会費	1,500,000	0	0	0	1,500,000	1,500,000	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	19,346,000	1,000,000	2,476,000	0	3,476,000	28,896,000	27,096,000	1,800,000
(2) 経費費用								
① 事業費								
給料手当	1,020,000	190,000	300,000	0	1,510,000	1,500,000	0	1,000,000
福利厚生費	27,200	4,800	8,000	0	39,000	40,000	0	10,000
会議費	3,732,000	357,000	1,800,000	0	5,889,000	5,893,000	0	3,110,000
旅費交通費	1,263,000	118,500	20,000	0	1,401,500	1,402,000	0	100,000
通信運搬費	4,136,000	36,000	0	0	4,172,000	4,172,000	0	1,290,000
減価償却費	905,200	6,700	3,300	0	915,200	915,200	0	915,200
消耗品費	842,400	0	0	0	842,400	842,400	0	842,400
修繕費	52,000	0	0	0	52,000	52,000	0	52,000
印刷製本費	7,455,400	68,500	60,000	0	7,583,900	7,104,000	0	480,000
光熱水費	192,000	0	0	0	192,000	192,000	0	192,000
管理費	824,000	0	0	0	824,000	824,000	0	824,000
倉庫使用費	176,000	0	0	0	176,000	176,000	0	176,000
保険料	136,000	0	0	0	136,000	136,000	0	136,000
支払手数料	210,000	0	30,000	0	240,000	240,000	0	240,000
租税公課	141,000	0	0	0	141,000	141,000	0	141,000
雑費	210,000	0	30,000	0	240,000	240,000	0	240,000
正会員会費	1,000,000	0	0	0	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000
経常経費	25,000	15,000	0	0	40,000	50,000	0	0
経常経費	145,000	0	0	0	145,000	145,000	0	0
経常計	366,700	198,300	0	0	565,000	740,000	0	0
経費	25,700	9,300	0	0	35,000	35,000	0	0
経費	240,245	3,570	1,280	0	245,095	245,000	0	245,000
経常収益	1,172,300	78,700	97,000	0	1,348,000	492,000	0	776,000
経常計	21,511,296	1,036,456	2,350,153	0	24,897,905	17,084,000	0	10,813,905

科目	公益目的事業会計		収益事業会計		法人 合計	前年度正半期 (B)	(差 割)
	健康活動 費	会員のための 生涯教育事業	相互扶助 表彰費	小 計			
①管理費							
給料手当					1,500,000	2,400,000	△ 1,500,000
福利厚生費					90,000	90,000	△ 0
会議費					1,110,000	1,900,000	△ 790,000
旅費交通費					100,000	200,000	△ 100,000
通信運搬費					320,000	320,000	△ 0
印刷製本費					120,000	400,000	△ 480,000
減価償却費					201,227	1,316,525	△ 915,302
消耗品費					210,000	1,053,000	△ 843,000
修繕費					200,000	200,000	△ 0
支払手数料					43,000	310,000	△ 197,000
租税公課					206,000	1,020,000	△ 814,000
雑費					191,000	200,000	△ 9,000
管理費計					3,222,027	14,220,522	△ 9,013,902
経常費用計	24,311,290	1,028,420	2,350,150	0	3,222,027	14,220,522	△ 9,013,902
評価損益調整益(損失)取崩増減額	△ 3,158,290	△ 36,420	151,810	0	852,370	△ 1,224,522	△ 1,835,000
基本財産評価損益等							
特定資産評価損益等							
控除資産評価損益等							
評価損益等計							
当期経常増減額	△ 3,158,290	△ 36,420	151,810	0	852,370	△ 1,224,522	△ 1,835,000
2. 経常外増減の部							
(1)経常外収益							
過半成果利益正額					20,000,024	20,000,024	△ 0
非営外収益計	0	0	0	0	20,000,024	20,000,024	△ 0
(2)経常外費用							
固定資産売却損					648,074	648,074	△ 0
固定資産売却益					2,267,280	2,267,280	△ 0
経常外費用計	0	0	0	0	2,915,354	2,915,354	△ 0
当期経常外増減額	0	0	0	0	20,000,024	20,000,024	△ 0
当会計期間増減額	△ 3,158,290	△ 36,420	151,810	0	852,370	△ 1,224,522	△ 1,835,000
前期正半期対前期増減額					22,289,146	22,289,146	△ 0
一般正半期対前期増減額					25,000,202	40,315,226	△ 15,315,024
一般正半期対前期増減額					30,419,101	53,334,284	△ 22,915,183
Ⅱ 特定正半期対前期増減の部							
当期特定正半期対前期増減額					0	0	△ 0
前年度特定正半期対前期増減額					13,000,000	0	△ 13,000,000
特定正半期対前期増減額					13,000,000	0	△ 13,000,000
Ⅲ 正半期対前期増減の部							
当期正半期対前期増減額					852,370	852,370	△ 0
前期正半期対前期増減額					13,000,000	0	△ 13,000,000
正半期対前期増減額					13,852,370	852,370	△ 12,999,999

(注) 前記した前年度の修正半期は、第2四半期決算とは異なる科目体系が適用されているため、参考情報として比較可能な数値を算出している。参考情報として比較可能な数値を算出している。また、この表では同一科目の増減を合算して表示している。

当年度修正半期では、事業費の増減が前年度修正半期に比べて増加している。また、経常外費用は、前年度修正半期に比べて増加している。また、経常外費用は、前年度修正半期に比べて増加している。

第2号議案 平成22年度決算報告(案)

貸借対照表

平成23年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	12,682,240	26,180,615	△ 13,498,375
流動資産合計	12,682,240	26,180,615	△ 13,498,375
2. 固定資産			
(1) 基本財産	0	0	0
(2) 特定資産	0	0	0
建物	32,668,630	17,513,999	15,154,631
土地	32,749,000	22,753,000	9,996,000
特定資産合計	65,417,630	40,266,999	25,150,631
(3) その他固定資産			
建物附属設備	2,687,880	0	2,687,880
什器備品	1,536,507	3,228,376	△ 1,691,869
電話加入権	10,300	10,300	0
その他固定資産合計	4,234,687	3,238,676	996,011
固定資産合計	69,652,317	43,505,675	26,146,642
資産合計	82,334,557	69,686,290	12,648,267
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	65,000	8,320,000	△ 8,255,000
預り金	52,308	38,528	13,780
借入金	0	1,306,924	△ 1,306,924
流動負債合計	117,308	9,665,452	△ 9,548,144
2. 固定負債			
長期借入金	16,855,000	19,075,000	△ 2,220,000
固定負債合計	16,855,000	19,075,000	△ 2,220,000
負債合計	16,972,308	28,740,452	△ 11,768,144
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	12,895,583	12,895,583	0
指定正味財産合計	12,895,583	12,895,583	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(12,895,583)	(12,895,583)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	52,466,666	28,050,255	24,416,411
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(62,522,947)	(27,371,416)	(35,150,631)
正味財産合計	65,362,249	40,945,838	24,416,411
負債及び正味財産合計	82,334,557	69,686,290	12,648,267

(注) 附属明細書に記載すべき「基本財産及び特定資産の明細」は、財務諸表に対する注記の「3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」の記載により、作成を省略している。

正味財産増減計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取会費			
正会員受取会費	18,588,895	20,273,435	△ 1,684,540
賛助会員受取会費	3,010,929	3,115,600	△ 104,670
② 事業収益			
研修会事業収益	2,682,000	8,369,604	△ 5,687,604
相談会事業収益	1,542,000	0	1,542,000
出版事業収益	0	0	0
③ 受取寄付金	1,206,924	3,037,500	△ 1,830,576
④ 受取補助金	0	766,043	△ 766,043
⑤ 雑収益			
受取利息	5,197	7,163	△ 1,966
広告収益	1,946,767	6,964,997	△ 5,018,230
雑収益	898,687	1,105,539	△ 206,852
経常収益計	29,881,390	43,639,881	△ 13,758,491
(2) 経常費用			
① 事業費			
給料手当	1,080,675	0	1,080,675
福利厚生費	67,507	0	67,507
会議費	6,567,666	5,246,778	1,320,888
旅費交通費	1,167,619	2,016,610	△ 848,991
通信運搬費	3,839,840	3,823,811	16,029
減価償却費	926,687	0	926,687
消耗品費	293,805	0	293,805
修繕費	51,168	0	51,168
印刷製本費	7,371,839	8,493,554	△ 1,121,715
光熱水料費	156,694	0	156,694
管理費	876,581	0	876,581
倉庫使用費	141,601	0	141,601
支払手数料	126,784	0	126,784
租税公課	240,159	0	240,159
庶務費	56,000	0	56,000
広報関連費	1,376,135	1,742,803	△ 366,668
研究助成費	50,000	50,000	0
原価料	500,000	85,000	415,000
諸謝金	588,328	1,538,818	△ 950,490
図書費	0	40,000	△ 40,000
支払利息	280,974	0	280,974
雑費	894,523	943,565	50,958
事業費計	26,654,585	23,880,939	2,773,646

科 目	当年度	前年度	増減
②管理費			
給料手当	1,080,676	2,612,513	△ 1,531,837
福利厚生費	67,508	83,812	△ 16,304
会議費	1,237,920	2,180,320	△ 942,400
旅費交通費	83,282	179,970	△ 96,688
通信運搬費	294,523	1,649,110	△ 1,354,587
印刷製本費	116,643	638,074	△ 521,431
減価償却費	203,310	0	203,310
消耗品費	73,451	4,728,165	△ 4,654,714
固定資産購入経費	0	1,738,260	△ 1,738,260
修繕費	204,672	0	204,672
光熱水料費	39,173	198,799	△ 159,626
管理費	219,145	589,507	△ 370,362
賃借料	0	1,680,000	△ 1,680,000
倉庫使用費	34,799	0	34,799
保険料	0	196,700	△ 196,700
支払手数料	31,696	309,700	△ 278,013
租税公課	260,172	70,000	190,172
郵便費	14,000	126,679	△ 112,679
謝礼金	0	346,500	△ 346,500
支払報酬	1,236,000	0	1,236,000
事務所設備費	0	1,118,605	△ 1,118,605
移転費用	0	164,500	△ 164,500
支払利息	70,244	124,454	△ 54,210
雑費	136,859	990,000	△ 853,141
管理費計	5,404,073	19,726,677	△ 14,321,604
経常費用計	32,058,658	43,606,616	△ 11,547,958
当期経常増減額	△ 2,177,288	33,265	△ 2,210,553
2. 経常外損益の部			0
(1) 経常外収益			0
過年度損益修正益	30,009,034	8,053,400	21,955,634
経常外収益計	30,009,034	8,053,400	21,955,634
(2) 経常外費用			0
固定資産除却損	648,076	47,771,461	△ 47,123,385
過年度減価償却費	2,767,279	0	2,767,279
経常外費用計	3,415,355	47,771,461	△ 44,356,106
当期経常外増減額	26,593,679	△ 39,718,061	66,311,740
当期一般正味財産増減額	24,416,411	△ 39,684,796	64,101,207
一般正味財産期首残高	28,050,255	67,735,051	△ 39,684,796
一般正味財産期末残高	52,466,666	28,050,255	24,416,411
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	0	12,895,583	△ 12,895,583
当期指定正味財産増減額	0	12,895,583	△ 12,895,583
指定正味財産期首残高	12,895,583	0	12,895,583
指定正味財産期末残高	12,895,583	12,895,583	0
III 正味財産期末残高	65,362,249	40,945,838	24,416,411

科 目	公益目的事業会計			収益事業会計			法人計	決算合計 (A.)	第2四半期正予算 (B.)	(参 考) 差 異 (A-B)
	雑活動 他	会員のための 活動費等	会員のための 活動費等	相互扶助 費等	共通	小計				
文藝活動										
助料手当							1,000,076	1,000,076	1,000,000	△ 19,324
福利厚生費							67,506	67,506	67,500	△ 27,509
印刷費							1,237,920	1,237,920	1,110,000	△ 127,920
旅費交通費							63,267	63,267	100,000	△ 16,218
通信運搬費							294,523	294,523	200,000	△ 25,477
印刷製本費							116,643	116,643	100,000	△ 3,357
減価償却費							203,316	203,316	201,227	△ 2,653
消耗品費							73,451	73,451	210,000	△ 137,149
印刷費							204,072	204,072	200,000	△ 3,329
光熱水料費							30,173	30,173	86,000	△ 8,827
管理費							219,141	219,141	206,000	△ 13,141
食料使用費							34,799	34,799	43,400	△ 9,601
保険料							0	0	34,000	△ 34,000
支払手数料							31,696	31,696	60,000	△ 29,304
租税公課							260,172	260,172	166,000	△ 94,172
雑費							14,000	14,000	60,000	△ 46,000
支払利息							1,226,000	1,226,000	500,000	△ 964,000
支払利息							10,244	10,244	71,400	△ 1,156
雑費							136,809	136,809	194,000	△ 57,191
管理費計							3,034,073	3,034,073	3,224,527	△ 191,149
給付費計							5,404,073	5,404,073	3,130,537	△ 1,061,874
評価損益調整額当座貸与増減額							△ 33,673	△ 33,673	△ 1,234,537	△ 1,047,203
基本財産評価増減益等							0	0	0	0
特定資産評価増減益等							0	0	0	0
投資有価証券評価増減益等							0	0	0	0
評価損益等計							△ 33,673	△ 33,673	△ 1,234,537	△ 1,047,203
当座貸与増減額							0	0	0	0
2. 経常外増減の部										
(1) 経常外収益										
過半数関係会社収益							30,000,000	30,000,000	30,000,000	0
経常外収益計							30,000,000	30,000,000	30,000,000	0
(2) 経常外費用										
固定資産売却損							648,076	648,076	648,076	0
過半数関係会社費用							3,767,279	3,767,279	3,767,280	△ 1
経常外費用計							3,415,355	3,415,355	3,415,356	△ 1
当座貸与増減額							26,582,625	26,582,625	26,582,625	0
当座貸与増減等計							0	0	0	0
当期一般正味財産増減額							34,418,411	34,418,411	32,269,148	△ 2,047,263
前期正味財産期首残高							28,030,233	28,030,233	28,030,233	0
一般正味財産期末残高							52,468,666	52,468,666	50,419,401	△ 2,047,263
固定正味財産増減の部										
当期正味財産増減の部							0	0	0	0
固定正味財産期首残高							12,850,163	12,850,163	12,850,163	0
固定正味財産期末残高							12,850,163	12,850,163	12,850,163	0
固定正味財産増減等計							0	0	0	0
正味財産増減等計							34,418,411	34,418,411	32,269,148	△ 2,047,263

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、次の方式を採用している。

有形固定資産 定額法

(2) 消費税等の会計処理について

消費税等の会計処理は税込方式により行っている。

2 会計方針の変更

当期より、財務諸表の作成基準を変更し、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律並びに公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の関連する規定に基づき、公益法人会計基準（平成20年4月11日、内閣府公益認定等委員会）を採用している。

3 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	—	—	—	—
特定資産				
建 物	17,513,999	16,165,000	1,010,369	32,668,630
土 地	22,753,000	9,996,000	0	32,749,000
小 計	40,266,999	26,161,000	1,010,369	65,417,630
合 計	40,266,999	26,161,000	1,010,369	65,417,630

4 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

科 目	当期末残高	（うち指定正味財産 からの充当額）	（うち一般正味財産 からの充当額）	（うち負債に 対応する額）
基本財産	—	—	—	—
特定資産				
建 物	32,668,630	—	(32,668,630)	—
土 地	32,749,000	(12,895,583)	(19,853,417)	—
小 計	65,417,630	(12,895,583)	(52,522,047)	—
合 計	65,417,630	(12,895,583)	(52,522,047)	—

5 担保に供している資産

建物32,668,630円（帳簿価額）、土地32,749,000円（帳簿価額）は、長期借入金16,855,000円（平成23年3月31日現在残高）の担保に供している。

6 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
特定資産			
建 物			
事務所マンション区分所有権	33,678,999	1,010,369	32,668,630
小 計	33,678,999	1,010,369	32,668,630
土 地			
事務所マンション敷地権	32,749,000		32,749,000
小 計	32,749,000		32,749,000
その他固定資産			
建物附属設備			
電気設備工事	170,000	15,186	154,814
スチールパーティション	1,079,469	96,432	983,037
スライディング遮音ドア	1,702,082	152,053	1,550,029
小 計	2,951,551	263,671	2,687,880
什器備品			
会旗	1,650,000	1,633,500	16,500
データプロジェクター	379,050	360,098	18,952
X線測定器	551,250	523,690	27,560
映画用スクリーン	120,058	53,465	66,593
壁面収納	676,691	60,450	616,241
ロールスクリーン	218,449	97,282	121,167
寄付者名盤	500,000	10,417	489,583
プロジェクター	182,960	3,049	179,911
小 計	4,278,458	2,741,951	1,536,507
電話加入権			
固定電話 (03-3806-7724)	10,300		10,300
小 計	10,300		10,300
合 計	73,668,308	4,015,991	69,652,317

財産目録

平成 23 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

資産対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金 預金	手元保管	運転資金として	751,280	
		<普通預金>			
		中央三井信託銀行八重洲口支店1	運転資金として	110,804	
		中央三井信託銀行八重洲口支店2	同上	1,909,618	
		みずほ銀行日本橋支店	同上	203,923	
		三井住友銀行日暮里支店	同上	57,797	
		三菱東京UFJ銀行王子支店	同上	503,799	
		みずほ銀行王子支店1	同上	1,136,960	
		みずほ銀行王子支店2	同上	2,483,860	
		<預貯金>			
		ゆうちょ銀行新橋口店	運転資金として	314,488	
<定期預金>					
中央三井信託銀行八重洲口支店	運転資金として	5,000,000			
			<現金・預金計>	12,682,240	
流動資産合計				12,682,240	
(固定資産)	特定資産	建物 事業用マンション区分所有権 605号棟 113.96㎡ 荒川区西日暮里2-411-15	(共有財産)	32,668,630	
			うち公益目的保有財産 78.6%	25,641,873	
			うち収益事業等使用財産1.6%	498,629	
			うち管理目的使用財産 20.0%	4,528,128	
				<建物計>	32,668,630
	土地	事業用マンション敷地権 持分2.4㎡(2.60㎡の100万分の6543) 荒川区西日暮里2-411-15	(共有財産)	32,749,000	
			うち公益目的保有財産 78.6%	25,767,965	
			うち収益事業等使用財産1.6%	491,215	
			うち管理目的使用財産 20.0%	4,549,820	
				<土地計>	32,749,000
				<特定資産計>	65,417,630
その他の固定資産	建物附属設備	電気設備工事	(共有財産)	154,811	
			うち公益目的保有財産 80.0%	123,851	
			うち管理目的使用財産 20.0%	30,960	
	ステアールパーテーション	(共有財産)	983,037		
		うち公益目的保有財産 80.0%	786,430		
		うち管理目的使用財産 20.0%	196,607		
	スライディング遮音ドア	(共有財産)	1,558,029		
		うち公益目的保有財産 80.0%	1,246,423		
		うち管理目的使用財産 20.0%	311,606		
				<建物附属設備計>	2,697,887
	什器備品	家具 1式	(共有財産)	14,660	
うち公益目的保有財産 80.0%			11,728		
うち管理目的使用財産 20.0%			2,932		
データプロジェクター1台		(公益目的保有財産)	14,962		
スキャナー1台		(公益目的保有財産)	21,560		
触画面スクリーン1台		(公益目的保有財産)	66,580		
壁面収納		(共有財産)	614,241		
	うち公益目的保有財産 80.0%	491,393			
	うち管理目的使用財産 20.0%	122,848			

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
電話加入権		ロールスクリーン1台	(共用財産) うち公益目的保有財産 80.0% うち管理目的使用財産 20.0%	121,167 96,934 24,233
		寄付者名盤1式	(共用財産) うち公益目的保有財産 78.5% うち収益事業等使用財産1.5% うち管理目的使用財産 20.0%	489,583 384,323 7,344 97,916
		プロジェクター1台	(公益目的保有財産)	179,911
			<什器備品計>	1,536,507
		固定電話1件:03-3806-7724	(共用財産) うち公益目的保有財産 80.0% うち管理目的使用財産 20.0%	10,300 8,240 2,060
			<電話加入権計>	10,300
			<その他固定資産計>	4,234,687
		固定資産合計	うち公益目的保有財産 うち収益事業等使用財産 うち管理目的使用財産	69,652,317 54,791,850 988,608 13,871,859
		資産合計		82,334,557
		(流動負債)	前受会費	会員からの平成23年度会費
	預り金	事務職員他	源泉所得税他	52,308
流動負債合計				117,308
(固定負債)	長期借入金	中央三井信託銀行新橋支店	公益目的事業及び収益事業等並びに 管理目的の業務に使用する土地・建 物の購入資金として	16,855,000
固定負債合計				16,855,000
負債合計				16,972,308
正味財産				65,362,249

第3号議案 平成22年度監査報告(案)

平成22年度期末監査報告書

定款12条4項に基づき、平成23年4月20日(水)、東京都荒川区西日暮里2丁目22番1、社団法人 東京都放射線技師会事務所において、平成22年4月1日から平成23年3月31日までの会計年度における会計および業務の監査を平成23年度の社団法人 東京都放射線技師会会長、副会長、経理事、総務理事、庶務理事ならびに税理士立会いのもとに行った結果を下記の通り報告する。

記

1. 監査の方法

(1) 会計

経理事の説明により帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手続きに則り、財務計算書及び附属明細書を詳細に監査した。

(2) 事業

三役・総務/庶務理事らの説明により事業計画案に基づいた事業の報告と関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手続きに則り、業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査の結果

(1) 会計

一般会計及び特別会計の収支計算書、貸借対照表、ならびに正味財産増減計算書、財産目録及び会計簿と記載金額とが一致し、法人の収支状況および財産状況を正しく示していると認める。

(2) 事業

平成22年度事業計画に基づき、事業ならびに会務の運営は順調に推進したことを認める。

以上

平成23年4月20日

前年度 監事 益戸達夫 印

監事 佐藤清榮 印

監事 中澤靖夫 印

監事・佐藤清榮は監督官庁の指導による会員外監事であります。

活動報告

1. 三役・専門部

【平成22年4月】

- 1日(木): 第1回理事会 / 中央医療技術専門学校入学式(会長代理)
- 2日(金): 初校 / 日本医療科学大学入学式出席(会長代理)
- 3日(土): 日放技学術大会第1回実行委員会
- 7日(水): 第1回五役会 / 経理作業 / 専門学校東洋公衆衛生学院入学式出席
- 8日(木): 城西放射線技術専門学校入学式出席(会長代理) / 経理作業 / 第2回看護フェスタ2010 打ち合わせ / 他県技師会長と面談
- 9日(金): 経理作業 / 他県技師会と懇談
- 12日(月): 東京電子専門学校入学式出席
- 13日(火): 編集委員会・再校正 / 60周年記念誌編集委員会 / 税理士チェック / 日放技学術大会第2回実行委員会
- 14日(水): 表彰委員会 / 学術委員会 / 経理作業
- 15日(木): 経理作業 / 他団体連携打ち合わせ会出席 / 日放技学術大会打ち合わせ会
- 16日(金): 渉外事務作業(小野賞候補者に決定のお知らせ発送) / 経理作業 / 第5地区施設訪問 / 都庁管理法人課訪問 / 岡山県放射線技師会会長と懇談
- 17日(土): 日放技全国会長会議出席 / 福利調査事務処理
- 19日(月): 平成21年度期末監査 / 青焼き
- 20日(水): 広報委員会 / 第14地区委員会 / 城北支部委員会 / 事務什器搬入業者と打ち合わせ / 他団体連携打ち合わせ会 / 福利調査事務所にて事務処理
- 22日(木): 第59回総会 60周年記念式典会場打ち合わせ / 渉外事務作業(60周年感謝状決定のお知らせ発送) / 銘板打ち合わせ / 日放技学術大会打ち合わせ会
- 24日(土): 事務所にて創立60周年記念式典準備作業 / 庶務作業
- 26日(月): 渉外事務作業(60周年関係) / 日放技学術大会第3回実行委員会
- 27日(火): 東京大学医学部附属病院技師長訪問

- 28日(水): 第1回専門部理事会: 経理作業
- 30日(金): 事務所にて創立60周年記念式典準備作業 / 日放技学術大会打ち合わせ会

【平成22年5月】

- 1日(土)~2日(日): 中四国会長会議出席
- 6日(木): 第2回理事会 / 庶務作業
- 7日(金): 都庁管理法人課訪問(定款変更申請書提出) / 初校 / 熊代岡山県会長、松倉理事と懇談
- 8日(土): 看護フェスタ2010 / 庶務作業 / 他県技師会と懇談 / 第1回日放技理事会出席
- 10日(月): 60周年記念式典司会者と打ち合わせ(アルカディア市ヶ谷) / 日放技学術大会打ち合わせ会
- 11日(火): 日放技学術大会打ち合わせ会
- 12日(水): 編集委員会・再校正 / 60周年記念誌編集委員会 / 総会・記念式典準備 / 経理作業
- 13日(木): 学術委員会 / 経理作業
- 14日(金): 東京警察病院訪問 / 総会・記念式典準備 / 経理作業 / 第4回日放技学術大会実行委員会
- 15日(土): 総会準備会議 / 日放技学東京部会総会出席 / 日放技学術大会プログラム作成作業
- 17日(月): 第59回総会資格審査委員会 / 経理作業
- 18日(火): HP委員会 / 税理士チェック / 第2回日放技学術大会プログラム委員会
- 19日(水): 第2回五役会 / 青焼き / 総会・記念式典準備 / 福利調査部連絡会議
- 20日(木): 総会・記念式典準備 / 経理作業
- 21日(金): 都庁管理法人課訪問(定款変更認可書受取) / 総会・記念式典準備 / 庶務作業 / 経理作業 / 川崎市放射線技師会総会
- 22日(土): 第59回定期総会 / 創立60周年記念式典 / 記念講演 / 祝賀会
- 24日(月): 小川崎玉県会長、片倉日放技理事打ち合わせ会議出席
- 25日(火): 事務所にて公益認定に関する調査 / 東京都病院薬剤師会総会懇親会出席
- 26日(水): 第5回日放技学術大会実行委員会

27日(水): 第2回専門部理事会 / 渉外総会後処理
28日(金): 日放技学術大会打ち合わせ会
29日(土): チーム医療シンポジウム出席
31日(月): 東京都看護協会総会出席

【平成22年6月】

1日(火): 東京都選出日放技総会代議員大会
2日(水): 初校 / HP委員会 / 日放技学術大会打ち合わせ会
3日(木): 第3回理事会
4日(金): 日放技学術大会プログラム委員会事務作業 / 他県技師会と懇談
5日(土): 第68回日放技総会・理事選挙
6日(日): 第2回日放技理事会 / 日放技代議員反省会
7日(月): 経理作業 / 日放技編集委員会
8日(火): 学術委員会 / 経理作業 / 第6回日放技学術大会実行委員会
9日(水): 経理作業 / 日放技学術大会プログラム委員会事務作業
9日(水)~11日(金): 第40回きめこまかな生涯教育
10日(木): 編集委員会・再校正 / 60周年記念誌編集委員会 / 定款諸規程検討委員会 / 厚労省医政局他訪問・日放技診療報酬打ち合わせ会
11日(金): 厚労省保険局長他訪問
12日(土): 教育会議(60周年記念誌作業) / 福利調査部事務処理 / 日放技五役会・常務理事会
13日(日): 石川県放射線技師会創立60周年記念式典出席
14日(月): 日本医師会会長訪問 / チーム医療推進協議会世話人会出席
15日(火): JIRA会長と懇談 / 経理作業
16日(水): 第3回五役会 / 税理士チェック / 日放技学術大会打ち合わせ会
17日(木): 第5地区委員会 / 日本病院会会長訪問 / 日本看護協会会長訪問 / 第7回日放技学術大会実行委員会
18日(金): 青焼き / 日放技打ち合わせ会
19日(土): 庶務作業 / FRT勉強会
20日(日): 第5地区日暮里駅前清掃活動 / 城西医療学園総会
21日(月): 新事務所寄付者銘板作成会議 / 日放技打ち合わせ会
22日(火): 第3回医療機器安全管理責任者養成講習会準備作業 / 中央区健康福祉まつり2010第1回全体会 / 日放技打ち合わせ会
23日(水): 広報委員会 / 住友生命拠出型年金関係の報

告 / 放射線専門技師認定機構との打ち合わせ会

24日(木): 第3回専門部理事会 / 日放技打ち合わせ会
25日(金): 公認会計士と打ち合わせ / 第8回日放技学術大会実行委員会
26日(土): 第3回医療機器安全管理責任者養成講習会準備作業 / 日放技第2回五役会 / 中央医療同窓会
27日(日): 第3回医療機器安全管理責任者養成講習会(運営・出席・講義)
28日(月): 総務・庶務委員会 / 日放技打ち合わせ会
29日(火): 日放技PC委員会
30日(水): 日放技打ち合わせ会

【平成22年7月】

1日(木): 初校
2日(金)~4日(日): 第26回放射線技師総合学術大会(大会長・実行委員長・運営・座長) / 経理作業
5日(月): 経理作業
6日(火): 経理作業
7日(水): 経理作業
8日(木): 第4回理事会 / 中澤靖夫日放技会長就任報告と感謝の集い
9日(金): 親睦地区対抗ボウリング大会準備
10日(土): 親睦地区対抗ボウリング大会
12日(月): 編集委員会・再校正 / 60周年記念誌編集委員会
14日(水): 学術委員会 / 広報委員会 / 公認会計士との打ち合わせ
15日(木): 第10地区委員会 / 厚生中央病院訪問 / 経理作業
16日(金): 青焼き / 税理士チェック
17日(土): 福利調査事務作業
21日(水): 第4回五役会
23日(金): 事務所にて公益認定のための打ち合わせ / 庶務作業
25日(日): 多摩放技レクリエーション大会参加
26日(月): 公認会計士との打ち合わせ
27日(火): 千葉県技師会千葉副会長と面談
29日(木): 第4回専門部理事会

【平成22年8月】

2日(月): 庶務作業 / 第3地区連絡会議
4日(水): 事務職員と懇談 / 経理作業
5日(木): 初校 / 60周年記念誌編集委員会 / 経理作業

9日(月): PCA会計ソフト点検(株)ネットワーク/
庶務作業
11日(水): 学術委員会/広報委員会/編集委員会・再
校正
16日(月): 公益認定の資料作成
18日(水): 渉外事務作業(日放技30年、50年案内発送
準備)/公認会計士との打ち合わせ
19日(木): 渉外事務作業(日放技30年、50年案内発送
準備)/青焼き
20日(金): 経理 税理士チェック
21日(土): 福利調査事務作業/日放技事務所移転検討
委員会/日放技生涯学習セミナー「MRI検
査」地域開催(南関東)打ち合わせ
22日(日): 日放技生涯学習セミナー「MRI検査」地域開
催(南関東)運営
26日(木): 第5回専門部理事会/臨時五役会/マンモ
講習会打ち合わせ(於:結核研究所)/日
放技レントゲン週間の打ち合わせ
28日(土): 第9回サマーセミナー
30日(月): 総務・庶務委員会/60周年記念誌編集委員会

【平成22年9月】

1日(水): 日放技30年、50年永年勤続表彰対象者案内
状発送
2日(木): 第5回理事会/初校
3日(金): 経理作業
6日(月): 都知事顔写真借用・返却・印刷会社にて画
像取り込み/経理作業
8日(水): 編集委員会・再校正/経理作業/学術委員
会(台風の影響で中止)
9日(木): 第10回合同学術講演会
10日(金): 事務所にて公認会計士と業務仕分け
12日(日): 千葉県放射線技師会地曳網大会参加
13日(月): 興和サインと銘板打ち合わせ
14日(火): 経理 税理士チェック
15日(水): 第5回五役会/広報委員会/60周年記念誌
編集委員会
16日(木): 日放技30年、50年永年勤続表彰書類作成
17日(金): 城北支部研修会/HP委員会/青焼き
20日(月): 第5地区日暮里駅周辺清掃活動
21日(火): 日放技30年、50年永年勤続表彰書類作成
24日(金): 福利調査部委員会
25日(土): 事務所作業(MR講習会)/福利調査部事
務処理作業
26日(日): 庶務作業
29日(水): 平成23・24年度第1回選挙管理委員会

30日(木): 第6回専門部理事会/新春企画座談会収録

【平成22年10月】

1日(金): 初校/第8回日放技常務理事会/ピンクリ
ボンin東京2010
2日(土): 第5回日放技理事会
3日(日): MRI集中講習会
4日(月): 経理作業
5日(火): 経理作業
7日(木): 第6回理事会/HP委員会
7日(木)~9日(土): 第16回EACRT大会出席
8日(金): 南関東放射線技師会拡大大会長会議・関東甲
信越放射線技師会拡大大会長会議
9日(土)~10日(日): 第35回中野祭り/平成22年度
関東甲信越学術大会(前橋)
12日(火): 編集委員会・再校正/広報委員会/福利関
係事務処理/経理作業
13日(水): 経理税理士チェック
14日(木): 学術委員会
14日(木)~16日(土): 第38回JSRT大会出席
17日(日): 第5地区荒川河川敷清掃活動
18日(月): 渉外事務作業(叙勲関係案内書類作成)/
経理作業/レントゲン週間イベント打ち合
わせ(日放技)
19日(火): 渉外事務作業(叙勲関係案内書類作成)/
経理作業
20日(水): 第6回五役会/青焼き
21日(木): 四谷監査法人にて打ち合わせ
22日(金): 第13地区研修会/学術委員会(臨時)/庶
務作業
22日(金)~24日(日): 北海道地域学術大会(講演含)
23日(土): 乳腺撮影検査(東京医大)/福利関係事務
処理
24日(日): 中央区健康福祉まつり2010
25日(月): 福利調査部委員会/事務所にて中間監査準
備/庶務作業
26日(火): 平成22年度中間監査
28日(木): 第7回専門部理事会
29日(金)~31日(日): 中国・四国地域学術大会(講演)
30日(土): 町田市第5回総合健康づくりフェア

【平成22年11月】

1日(月): 庶務委員会
4日(木): 第7回理事会/初校/60周年記念誌三校
5日(金): 会費再請求打ち合わせ
6日(土): 第21回OTAふれあいフェスタ/第9回日放

技常務理事会 / 長野県放射線技師学術大会
 7日(日): 第21回OTAふれあいフェスタ / 日放技レントゲン週間イベント参加
 9日(火): HP委員会 / 経理作業
 10日(水): 編集委員会・再校正 / 60周年記念誌四校 / 経理作業
 10日(水)~12日(金): 第41回きめこまかな生涯教育
 12日(金): 城南支部研修会 / 経理作業
 13日(土): 日放技第69回臨時総会
 15日(月): 福利調査部アンケート調査発送作業 / 税理士チェック
 16日(火): 学術委員会 / 医療従事者ネットワーク連絡会(都庁) / 第5地区委員会
 17日(水): 第7回五役会 / 広報委員会 / 会誌青焼き / 60周年記念誌青焼き
 18日(木): 第13回メディカルマネジメント研修会 / 臨床実習施設指導者講習会で講演
 19日(金): 臨床実習施設指導者講習会で講演
 20日(土): 結研マンモ作業
 20日(土)~21日(日): 九州放射線技術学術大会出席
 22日(月): 第9回ペイシェントケア学術大会シンポジスト依頼状発送作業
 23日(火): 城西放射線専門学校50周年
 24日(水): 城西支部研修会 / 経理作業 / 庶務作業
 25日(木): 第8回専門部理事会
 27日(土): 多摩放技創立50周年記念式典祝賀会出席 / 香川県放射線技師会で講演
 29日(月): 経理作業(予算関連)
 29日(月): 総務・庶務委員会

【平成22年12月】

1日(水): 初校 / 銘板打ち合わせ / 経理作業 / 職能6団体会長会議
 2日(木): 第13地区研修会 / 五役打ち合わせ / 銘板打ち合わせ
 3日(金): 経理作業 / 庶務作業 / 厚労省と医療機器に関する第3回打ち合わせ会議
 4日(土): 第8回理事会・第17回役員研修会 / 国立病院関東信越放射線技師長会で講演
 6日(月): 経理作業
 7日(火): 経理作業 / 銘板打ち合わせ
 8日(水): 編集委員会・再校正 / ペイシェントケア学術大会のシンポジウム打合せ / 銘板打ち合わせ / 庶務作業公益認定に向けての書類整理 / 画像コンソーシアム
 9日(木): HP委員会 / 銘板打ち合わせ

10日(金): 銘板打ち合わせ / 福利事務作業 / 事務職員と懇談 / JART・JSRT合同会議
 11日(土): 事務所倉庫廃棄物整理作業 / 日放技第6回全理事会
 12日(日): 銘板打ち合わせ
 13日(月): 銘板打ち合わせ / 経理作業
 14日(火): 税理士チェック / 厚労省と医療機器に関する第4回打ち合わせ会議
 15日(水): 第8回五役会 / 新春の集い会場打ち合わせ / 庶務作業(プロジェクター設置下見)
 16日(木): 総務・庶務委員会 / 青焼き
 17日(金): 四谷監査法人と打ち合わせ / 鈴鹿医療科学大学理事会
 18日(土): 教育会議
 19日(日): ペイシェントケア学術大会に関する東京都・新宿区への後援申請書作成 / 日放技学術教育運営会議
 20日(月): 第5地区委員会
 21日(火): 公益認定に向けての書類整理および都庁へ書類送付 / 民主党・厚労省・文科省とJART要望書についての会議
 22日(水): 第9回専門部理事会
 24日(金): 日放技データベース会議
 25日(土): 日放技入会促進委員会
 26日(日): 日放技拡大五役会
 28日(火): 事務所納め

【平成23年1月】

4日(火): 事務所開き
 5日(水): 経理作業
 5日(水): 平成23・24年度第2回選挙管理委員会 / 厚労省訪問
 6日(木): 第9回理事会 / 初校
 7日(金): 新春のつどい
 8日(土): 第12回日放技常務理事会 / 日放技DB委員会 / 公明党と情報交換会
 9日(日): 第10回日放技五役会・第3回全国会長会議
 11日(火): 経理作業 / 庶務作業
 12日(水): 編集委員会・再校正 / 経理作業 / 渉外事務作業(表彰委員会準備) / 厚労省・文科省訪問 / JIRA連絡会議
 13日(木): 表彰委員会 / 学術委員会 / 経理作業 / 東京都臨床検査技師会新春のつどい
 14日(金): 渉外事務作業・都庁訪問(叙勲申請書提出)
 15日(土): P-METで講義

- 17日(月): 税理士チェック
- 18日(火): 渉外事務作業(叙勲関係)
- 19日(水): 第9回五役会/青焼き/銘板取り付け・広報委員会
- 20日(木): ペイシエントケア学術大会・総会会場下見および打ち合わせ(東医健保会館)
- 21日(金): 結研マンモ研修会/渉外事務作業(東京都功労者表彰関係)/日本医療機能評価機構訪問/原子力技術安全センター訪問/福利調査委員会
- 22日(土): 結研マンモ研修会/第12地区勉強会/福利調査部事務処理作業/(社)京都府放射線技師会主催府民公開講座で講演
- 23日(日): 結研マンモ研修会/(社)滋賀県放射線技師会創立60周年記念式典
- 24日(月): 渉外事務作業(叙勲関係)/日本医学放射線学会理事長、JRC理事長、JSRT会長と打ち合わせ
- 25日(火): P-MET連絡会議
- 26日(水): 国際医療センター訪問/厚労省訪問
- 27日(木): 第10回専門部理事会/都庁訪問(叙勲申請書関係書類提出)
- 28日(金): 第11回日放技五役会/JART・JIRA合同会議/第2地区連絡会議
- 29日(土): 第9回ウインターセミナー/(社)愛媛県放射線技師会で講演
- 31日(月): 表彰委員会報告書作成・送付(委員宛)

【平成23年2月】

- 3日(木): 第10回理事会/初校/都庁訪問(叙勲関係書類再提出)
- 4日(金): 渉外事務作業(東京都功労者表彰)/都庁管理法人課訪問(公益社団法人申請関連)/第13回日放技五役会・第13回日放技常務理事会・第27回学術大会インターナショナル打ち合わせ会議
- 5日(土): 教育事務所作業/FRT勉強会出席/岡山県放射線技師会創立60周年で講演
- 7日(月): 第60・61回総会実行委員会/医療従事者ネットワーク連絡会(都庁)/経理作業
- 8日(火): 多摩支部研修会/編集委員会・再校正/経理作業
- 9日(水): 第10回五役会/学術委員会/P-METと打ち合わせ会議
- 10日(木): 岐阜県放射線技師会創立60周年で講演
- 12日(土): 第27回学術大会組織委員と打ち合わせ

- 13日(日): 公益認定に関する資料作成/総務事務所にて書類整理/第27回学術大会第4回組織委員会/第1回職域団体会長会議
- 14日(月): 渉外事務作業(東京都功労者表彰)/画像コンソーシアム
- 15日(火): 渉外事務作業(東京都功労者表彰)/経理作業
- 15日(火)~17日(木): 第42回きめこまかな生涯教育
- 16日(水): 庶務作業/税理士チェック/P-METと打ち合わせ会議
- 17日(木): 青焼き/第4地区研修会(JR東京病院)/厚労省とチーム医療の件で打ち合わせ会議
- 18日(金): 都庁訪問(東京都功労者表彰関係書類提出)/庶務作業/東京放射線治療技術研究会
- 19日(土): 四谷監査法人にて打ち合わせ/近畿地域会長会議出席(和歌山)
- 20日(日): 総会会場視察(東医健保会館)/日暮里駅周辺清掃活動/近畿地域放射線技師会学術大会で講演
- 22日(火): 第1地区研修会(事務所)/医学放射線学会・JRC・JSRT・JART合同会議
- 23日(水): 総会会場レイアウト計画図提出(東医健保会館)/福利調査事務業務
- 24日(木): 第11回専門部理事会
- 25日(金): 第5地区つどい(事務所)/庶務作業/日放技編集会議
- 26日(土): 葛西副会長・総務事務所にて総会準備作業/第14回日放技常務理事会・第7回日放技理事会・第14回日放技五役会
- 28日(月): 総務・庶務委員会/経理作業

【平成23年3月】

- 1日(火): 千葉県警察署の相談(注腸検査等)に対応
- 3日(木): 第11回理事会/初校
- 4日(金): 厚労省と広告のできる認定技師について相談/経理作業/庶務作業
- 5日(土): 第9回ペイシエントケア学術大会/第60回定期総会
- 7日(月): 経理作業
- 8日(火): 広報委員会/城西放射線技術専門学校卒業式
- 9日(水): 再校正・編集委員会/都庁訪問(保健文化賞申請書類提出)/四谷監査法人にて打ち合わせ
- 10日(木): 対がん協会・結核予防会研修会で講演
- 11日(金): 中央医療技術専門学校卒業式出席

- 12日(土): 第1回地震災害対策本部会議
 13日(日): 第2回地震災害対策本部会議 / 東放技地震災害対策委員会設置・第2回地震災害対策本部会議出席
 14日(月): 第3回地震災害対策本部会議
 15日(火): 第4回地震災害対策本部会議 / 被災地測定用貸出し計測器回収・配達
 16日(水): 第一次放射線サーベイ派遣隊結団式 / 第5回地震災害対策本部会議
 16日(水)~21日(月): 福島県被災地被災く測定
 17日(木): 第6回地震災害対策本部会議 / 住友生命と損害保険契約について話し合い
 18日(金): 第7回地震災害対策本部会議 / 第7回地震災害対策本部会議出席 / 青焼き
 19日(土): 第8回地震災害対策本部会議 / 事務所にて四谷監査法人との打ち合わせ / 福利調査部事務処理
 20日(日): 第9回地震災害対策本部会議
 21日(月): 第一次放射線サーベイ派遣隊解散式 / 第10回地震災害対策本部会議
 22日(火): 都庁福祉保険局訪問(都内避難所サーベイ協議) / 厚労省へ第一次派遣隊放射線サーベイ記録報告 / 第11・12回地震災害対策本部会議 / 経理作業
 23日(水): 第13回地震災害対策本部会議 / 経理作業
 24日(木): 第14回地震災害対策本部会議 / 都内避難所(東京ビッグサイト)サーベイ活動 / 次回きめこま依頼状などの作成
 25日(金): 第15回地震災害対策本部会議 / 新会計ソフト入力作業
 26日(土): 第16回地震災害対策本部会議 / 都内避難所(東京ビッグサイト)サーベイ活動
 27日(日): 第17回地震災害対策本部会議
 28日(月): 第18回地震災害対策本部会議 / 東京都と新宿区への第9回バイシエントケア学術大会報告書作成 / 経理作業
 29日(火): 第19回地震災害対策本部会議 / HP委員会
 30日(水): 都内避難所(東京ビッグサイト)サーベイ活動 / 庶務作業
 31日(木): 第12回専門部理事会 / 北村税理士と経理チェック

2. 各地区共通活動

総会・研修会・生涯教育学術大会・スポーツ大会等の東放技主催事業への協力。会員増員への啓発活動、会員名簿のメンテナンス、東放技会と会員間の案内活動等と

その活動報告

3. 地区活動報告

【第1地区】地区委員会開催9回

1地区・4地区合同都民音楽会 平成22年11月16日

参加人数：会員31人、非会員5人

地区研修会 平成23年2月22日

参加人数：会員8人

城東支部合同地区委員会 平成22年5月18日

参加人数：1地区4人

地区情報交換会 平成22年7月30日

参加人数：会員5人

地区情報交換会 平成23年2月22日

参加人数：会員7人

【第2地区】地区委員会開催7回

第2地区・第14地区合同地区の集い平成22年8月7日

参加人数：会員19人

地区情報交換会 平成23年1月28日

参加人数：会員8人

【第3地区】地区委員会開催8回

地区情報交換会 平成22年10月28日

参加人数：会員6人

城西支部情報交換会 平成22年11月24日

参加人数：会員10人、非会員2人

【第4地区】地区委員会開催9回

地区研修会 平成23年2月17日

参加人数：会員51人、非会員3人

1地区4地区合同都民音楽会 平成22年11月16日

参加人数：会員31人、非会員5人

【第5地区】地区委員会開催6回

地区研修会 平成23年2月25日

参加人数：会員27人、非会員5人(学生)

荒川河川敷清掃活動 平成22年10月20日

参加人数：会員6人、非会員4人

地区情報交換会 平成22年12月18日

参加人数：会員14人

日暮里駅前清掃活動 平成23年2月20日

参加人数：会員9人、非会員4人

地区のつどい 平成23年2月25日

富津海岸親睦清掃旅行 平成23年3月12日

参加人数：中止

日暮里駅前清掃活動 平成23年3月20日

参加人数：中止

【第6地区】地区委員会開催8回

城北支部研修会 平成22年9月17日

参加人数：会員39人、非会員1人

他地区との交流会 平成22年11月17日

参加人数：会員5人

地区情報交換会 平成23年1月20日

参加人数：会員7人

【第7地区】地区委員会開催3回

城東支部合同地区委員会 平成22年5月18日

地区研修会 平成22年10月22日

参加人数：会員29人

【第8地区】地区委員会開催

【第9地区】地区委員会開催9回

地区情報交換会 平成22年8月6日

参加人数：会員17人

地区情報交換会 平成22年12月20日

参加人数：会員17人

【第10地区】地区委員会開催10回

地区情報交換会 平成22年7月15日

参加人数：会員9人

地区情報交換会 平成22年12月8日

参加人数：会員7人

【第11地区】地区委員会開催10回

地区情報交換会 平成22年8月27日

参加人数：会員10人、非会員6人

地区情報交換会 平成23年2月25日

参加人数：15名

【第12地区】地区委員会開催6回

地区研修会 平成22年6月26日

参加人数：会員24人、非会員12人（学生7名含）

地区研修会 平成23年1月22日

参加人数：会員27人、非会員3人

地区情報交換会 平成22年6月26日

参加人数：会員14人

地区情報交換会 平成23年1月22日

参加人数：会員14人

【第13地区】地区委員会開催8回

地区研修会 平成22年10月22日

参加人数：会員66人（新卒17人、講師1人含）
非会員11人

地区研修会 平成22年12月2日

参加人数：会員7人、非会員1人

町田市健康づくりフェア 平成22年10月30日

参加人数：会員7人

多摩支部研修会 平成23年2月8日

参加人数：会員17人（講師含）非会員4人

【第14地区】地区委員会開催10回

14地区2地区の集い 平成22年8月7日

参加人数：会員19人

【第15地区】地区委員会開催10回

【第16地区】地区委員会開催11回

地区研修会 平成22年9月10日

参加人数：会員60人、非会員2人（学生）

4. 支部別活動報告

城東支部研修会1回

城西支部研修会1回

城南支部研修会1回

城北支部研修会1回

多摩支部研修会1回

5. 特別委員会報告

【表彰委員会】

委員会開催2回

第1回表彰委員会 平成22年4月14日（水）

小野賞・20年勤続表彰について

叙勲・東京都功労者表彰の件（推薦見送り）

第2回表彰委員会 平成23年1月13日（木）

平成23年度叙勲、東京都功労者表彰推薦の件

渉外部は表彰に関する人選、推薦、種類作成等を行った。

【定款・諸規定検討委員会】

委員会開催1回

第12回委員会 平成22年6月10日（木）

・公認会計士との契約の検討

・第58回総会において定款改定が承認されたので、今後申請手続きを行う。

・監督官庁との折衝になるため全体での活動は休止とし、必要に応じて開催する。

【新事務所設立委員会】

平成23年1月19日銘板完成・取り付け作業を行った。

【将来検討委員会】

委員会開催6回

・検討議案：地区活動の活性化に対する現状と打開策を6月理事会に答申案提出

【ホームページ委員会】

委員会開催13回

第7回委員会 2010年3月31日

1. 現状の確認

2. 来年度の体制について

3. 定期開催日程について

4. 2010年度の更新について

5. TARTメールについて

6. 2011年度の運営について

7. 新HPについて

第8回委員会 2010年5月18日

1. 現状の確認
2. 来年度のサーバについて
3. テストサーバについて
4. コンテンツについて
5. 新HPについて

第9回委員会 2010年6月2日

1. 現状の確認
2. コンテンツについて
3. 一般向けコンテンツについて
4. 役割分担

第10回委員会 2010年7月14日

1. TARTメールについて
2. コンテンツについて
3. 役割分担
4. 宿題

第11回委員会 2010年8月12日

1. 無料サーバ(学会研究会)の検討(参考資料参照)
2. 前回の研修会コンテンツの宿題(研修会を題材にして)
3. SSL導入の検討
4. 今月月末の理事会に提出する内容
5. 渡辺マップの説明
6. サーバ決定の早期検討

第12回委員会 2010年9月17日

1. SSL導入とホスティングサーバの選定
2. サーバ移転の検討
3. 新規HPでの運用方法に関する検討
4. 新規HP試験公開の時期の検討
5. 検討課題

第13回委員会 2010年10月7日

1. アイナテックのHPサーバーについて
2. SSLの設定
3. 新規ホームページでの運用方法に関する検討
4. 研修会案内について

第14回委員会 2010年11月9日

1. 新規ホームページでの運用方法に関する検討
2. TARTメールの検討
3. tartt.jpの名義
4. 各地区の案内、お知らせや会告
5. 新サーバのSSL、マルチドメインについて

第15回委員会 2010年11月25日

1. 研修役員会でのプレゼンの検討
2. 入会申し込みに関して
3. 更新に関する流れ

4. 検討課題

第16回委員会 2010年12月9日

1. tart.jpHPの東京都放射線技師会役員向け事前公開
2. 各地区HPの運用
3. 運用マニュアルの作成
4. 研修会情報の掲載方法
5. 独自SSL導入計画
6. 来年度運用新コンテンツに関して

第17回委員会 2011年1月21日

1. 購入ソフトについて
2. 運用マニュアルについて
3. 独自SSL導入計画
4. 来年度運用審コンテンツに関して

第18回委員会 2011年2月20日

1. 4月の会誌原稿
2. 配布マニュアル最終確認(研修会掲載、メール、ftp)
3. 3月移転スケジュールと役割分

第19回委員会 2011年3月29日

1. 本公開後のサイトチェック
2. 4月以降の更新作業最終確認
3. 引き継ぎ作業(tart.or.jp関係)
4. 会誌4月号の更新リスト確認

【機器管理部会】

第3回医療機器安全管理責任者養成講習会

開催日時：平成22年7月27日(日)9時00分～17時00分

開催場所：(社)東京都放射線技師会研修センター
参加人数：26名(東京16、他県7、非会員3)

関係法規

一般医療機器の安全管理

医療機器安全管理責任者の実務

指定5項目医療機器(放射線以外)の安全管理

指定2項目を含む放射線関連機器の安全管理

【放射線管理士部会】

参加/活動イベント

1. イベント：看護フェスタ - 2010看護の日・看護週間事業 -

日 時：平成22年5月8日(土)

会 場：新宿駅西口広場イベントコーナー

主 催：(社)東京都看護協会

参加人数：放射線技師8名(内放射線管理士2名)

来場者：多数

2. イベント：9.30放射線災害の日

日 時：平成22年9月30日(木)18:00～21:00

会 場：独立行政法人国立病院機構災害医療センター

講演講師：塚田 勝 東京都放射線管理士部会

参加人数：診療放射線技師25名（内放射線管理士5名）

3. イベント名：サーベイメータの確認校正

放射線測定器の動作チェックを実践しよう！

日 時：平成22年10月3日（日）10:00～13:30

会 場：駒澤大学医療健康科学部

参加者：放射線管理士3名 診療放射線技師7名
（国立病院5施設）駒澤大学学生5名、駒澤大学佐藤昌憲教授、大棒技師長（災害医療センター）

測定器：電離箱式サーベイメータ（5台）

廣川竜斗
三上 徹
羽田雅浩
田鹿義治
土屋文宏
神田拓哉
第5地区

山田中道
井野賢司
第6地区

今沢ゆか
山本雅徳
倉田絵里
中村真規
第7地区

奥山由美子
赤木由佳
石川託也
矢澤真一
石井智子
第8地区

野坂香織
井村有里奈
黒澤 駿
藤井智希
安田 優
吉井伸之
若松裕二
渡邊 藍

山田章太
吉田大祐
恒木正彦
福地達夫
日和佐 剛
第9地区

中村直樹
第10地区
小林和也
清水俊哉
新井 敬
湯本真良
井草朋一

橋田美里
大谷宗親
第11地区
田村正樹
真下敦子

田中利則
安倍 眞
第12地区

東京都済生会中央病院
東京都済生会中央病院
北里大学北里研究所病院
東京都済生会中央病院
日本赤十字社医療センター
クロス病院

赤羽病院
東京大学医学部附属病院

東部地域病院
東部地域病院

東京北部病院

順天堂東京江東高齢者医療センター

日本予防医学協会

山田記念病院

東京臨海病院

江東病院

JR東日本健康推進センター

NTT東日本関東病院

昭和大学病院

昭和大学病院

昭和大学病院

昭和大学病院

昭和大学病院

昭和大学病院

NTT東日本関東病院

NTT東日本関東病院

羽田共生病院

NTT東日本関東病院

シーメンス・ジャパン（株）

田 病院

河北総合病院

城西病院

河北総合病院

河北総合病院

城西病院

河北総合病院

練馬総合病院

国立病院機構東京医療センター

駒沢健康管理センター

日産厚生会玉川病院

自衛隊中央病院

再

再

再

再

活動報告

1. 会員数

平成22年度末

	会員数	増	減	差引
正会員	1,768	102	126	△24
賛助会員	202	0	14	△14
計	1,970	102	140	△38

2. 平成22年度会員動向

新入会（83名）

第1地区

横山博章 東京通信病院

中村淳一 東京通信病院

再

細田直樹 三井記念病院

寺島俊幸 東京通信病院

再

三浦靖則 松翁会大手町検診センター

再

和田公人 東京通信病院

再

田島宏美 三井記念病院

第2地区

石橋誠一 石橋接骨院

古谷 健 コスモワーク（株）

鈴木朋之 浅草寺病院

甲木聡美 聖路加国際病院

増田智之 聖路加国際病院

木村俊雄 早期胃癌検診協会

再

平井隆昌 国立がん研究センター中央病院

第3地区

東平 修 新宿医療センター

櫻井信子

再

西澤 徹 東洋公衆衛生学院

北野敦史 東京厚生年金病院

第4地区

臼沢盛夫 東京放送ホールディングス

牛川多恵 JR東京総合病院

小松 礼児 鹿島建設（株）人事部健康管理センター

東京都済生会中央病院
東京都済生会中央病院
北里大学北里研究所病院
東京都済生会中央病院
日本赤十字社医療センター
クロス病院

赤羽病院
東京大学医学部附属病院

東部地域病院
東部地域病院

東京北部病院

順天堂東京江東高齢者医療センター

日本予防医学協会

山田記念病院

東京臨海病院

江東病院

JR東日本健康推進センター

NTT東日本関東病院

昭和大学病院

昭和大学病院

昭和大学病院

昭和大学病院

昭和大学病院

昭和大学病院

NTT東日本関東病院

NTT東日本関東病院

羽田共生病院

NTT東日本関東病院

シーメンス・ジャパン（株）

田 病院

河北総合病院

城西病院

河北総合病院

河北総合病院

城西病院

河北総合病院

練馬総合病院

国立病院機構東京医療センター

駒沢健康管理センター

日産厚生会玉川病院

自衛隊中央病院

森 英彦 東京都立東大和療育センター
 小林奈保子 福岡レディスクリニック
 小杉真世 新山手病院
 金子貴之 国立病院機構災害医療センター
 第13地区
 佐藤典子 立川北口健診館
 金子英利 東京都多摩がん検診センター 再
 船木廣和 武蔵野陽和会病院
 竹林大地 武蔵野陽和会病院
 東 勇太 南町田病院
 島田尋行 永生病院
 倉田靖丈 府中恵仁会病院
 近藤仁美 府中恵仁会病院
 小関真也 東京医科大学八王子医療センター
 渡邊祥子 多摩南部地域病院
 小峰詠里加 多摩南部地域病院
 第15地区
 許斐圭子 富士電機病院
 武居ちあき 昭和大学横浜市北部病院
 山本 恵 昭和大学藤が丘病院
 池田麻依 帝京大学医学部附属溝口病院
 小倉大輔 横浜つづき整形外科

転入(19名)

第1地区
 加藤 裕 メディカルスキャンニングお茶の水
 上宮田貴史 メディカルスキャンニングお茶の水
 第2地区
 阪野由英 大島医療センター
 第3地区
 若松和行 国立国際医療研究センター戸山病院
 熊谷大樹 東京女子医科大学病院
 第5地区
 村山嘉隆 東京大学医学部附属病院
 第6地区
 齊藤圭吾
 山下栄子
 第8地区
 坂井茂夫 東京労災病院
 若山季樹 荏原病院
 豊田高次 NTT東日本関東病院
 舟木 勤 牧田総合病院
 第10地区
 桐 碧
 第11地区
 俵 由希子 国立病院機構東京医療センター
 第13地区
 鈴木智子 永生病院
 福德有希 南多摩病院
 三登将平 北原脳神経外科病院

鈴木光昭 八王子医療刑務所
 第15地区
 藤原篤史 ふじの温泉病院
 転出(21名)
 第1地区
 岡野真人 三菱診療所 栃木県へ
 倉内和代 クリニックイク丸ノ内 静岡県へ
 正木 伸 青葉レントゲン診療所 福島県へ
 第3地区
 松本拓也 東京女子医科大学病院 福島県へ
 石川由美子 新宿海上ビル診療所 茨城県へ
 第4地区
 黒川俊樹 PL東京健康管理センター 富山県へ
 渡邊直通 JR東京総合病院 山梨県へ
 第7地区
 野村佳代 城東社会保険病院 埼玉県へ
 山口剛志 江東病院 静岡県へ
 第8地区
 堀 大樹 昭和大学病院 神奈川県へ
 佐藤寿人 東京労災病院 新潟県へ
 第11地区
 田平秀隆 自衛隊中央病院診療放射線技師養成所 埼玉
 玉県へ

富永信也 自衛隊中央病院 熊本県へ
 中野吾郎 自衛隊中央病院 京都府へ
 第13地区
 平川亜津砂 野村病院 埼玉県へ
 佐野美由紀 公立福生病院 新潟県へ
 第14地区
 吉田浩子 静岡県へ 賛
 野中麻里亜 浅井病院 千葉県へ 賛
 第15地区
 座間佳男 昭和大学横浜市北部病院 栃木県へ 賛
 寿福有由美 神奈川県へ 賛
 第16地区
 田島 修 埼玉循環器・呼吸器病センター 埼玉県へ
 賛

編出入(13名)

須大輔 昭和大学病院 賛 正
 山口雅崇 東京慈恵会医科大学附属柏病院 正 賛
 三原紗代子 日下部病院 正 賛
 河合多恵 東京慈恵会医科大学附属柏病院 正 賛
 野中麻里亜 浅井病院 正 賛
 山本 恵 昭和大学藤が丘病院 正 賛
 山田太一 相武台病院 正 賛
 蜂須賀梨沙 湘南中央病院 正 賛
 飯塚卓宏 昭和大学藤が丘病院 正 賛
 黒澤 駿 昭和大学藤が丘病院 正 賛

山野一義	国立国際医療研究センター	賛	正	西口修八	公立阿伎留病院	
岡田圭伍	昭和大学病院	賛	正	佐藤裕二	南多摩病院	
崔 昌五	昭和大学病院	賛	正	石川稔恵	都立府中病院	
				横瀬健一	天本病院	
退会 (57名)				武田光博	立川中央病院	
第1地区				大澤典久	青梅市立総合病院	
***				後藤鉄郎	横河電気診療センター	
斉藤朝子	三菱商事診療所			伊藤 丈	多摩丘陵病院	
橋本猛夫	三楽病院			角田しずか	立川中央病院	
捧 静夫	管工業健康保険組合			沼田鶴松		
平良 茂	日本生命保険 (相) 東京健康管理所			盛 伸二	公立昭和病院	
第2地区				平林 明	町谷原病院	
下村純高	関東信用組合健康保険組合			久米田暢行	日本医科大学付属多摩永山病院	
第3地区				第14地区		
浜松正道	明治安田生命新宿健診センター			中山暢之	中沢病院	賛
第4地区				名村孝一	順天堂大学医学部附属浦安病院	
家塚今朝男	日本赤十字社医療センター			中嶋 淳	松戸市立病院	賛
青木邦夫	麻布病院			武田弘志		賛
橋本廣信	東京慈恵会医科大学附属病院			戸澤光行	東邦大学医学部付属佐倉病院	
桑原貞俊	フィリップスエレクトロニクスジャパン			第15地区		
少路 進	日本赤十字社医療センター			松井 孝	清川病院	死去
第5地区				石垣俊明		賛
美馬和男	東京大学医学部附属病院			板垣勝義	聖マリアンナ医科大学病院	
和田宏之	トッパングループ健康保険組合			佐藤喜三郎		賛
阿部光夫	日本医科大学付属病院			第16地区		
折館 隆	東京大学医学部附属病院			輿石武士	守田内科医院	賛
棚橋順治	大橋病院			古田 榮	国立西新潟中央病院	
駒崎 明	金地病院			飛田 一	国際医療福祉大学クリニック	賛
第6地区						
河合信幸	東京女子医科大学東医療センター			会費滞納 (62名)		
第7地区				第1地区		
藤井謙三	北小岩整形外科			吉田陽子	新日本製鐵株式会社	
青田裕美子	城東社会保険病院			第2地区		
第8地区				伊藤博康	メディックサイト (株)	
柴田定示	NTT東日本関東病院			宇津野俊充	国立がんセンター中央病院	
佐藤香織	シーメンス・ジャパン (株)			第3地区		
鈴木梨香	蒲田総合病院			大竹紹貴	社会保険中央総合病院	
井上能成	東邦大学医療センター大森病院			柴多良孝	大日本印刷メディカルセンター	
第9地区				洞田貫啓一	社会保険中央総合病院	
鈴木 茂	愛誠病院			花村武史	東京女子医科大学病院	
第10地区				第4地区		
田近麻利子	慈生会病院			遠藤吉宗	公務員共済 虎の門病院	
蛭子 仁	東京衛生病院			庄司友和	東京慈恵会医科大学附属病院	
第11地区				杉山哉子	渋谷区保健所	
***				百地佳代	南青山プレストピアクリニック	
福崎昭信	自衛隊中央病院診療放射線技師養成所			第5地区		
第12地区				岩田 正	国立印刷局 東京病院	
菊地優貴	国立精神・神経センター病院			山口 司	王子病院	
第13地区				木戸場貴子	富阪診療所	
井上敏男	青梅市立総合病院			第6地区		

井熊裕輔 高橋医院
 小森直也 新葛飾病院
 杉浦勇樹 多摩相互病院
 矢幅俊一
 湯田 亮 西新井病院
 吉沢 進 名倉病院
 第7地区
 川江大一 江東病院
 北尾正人 亀戸南口クリニック
 松下隆一 江戸川区医師会医療検査センター
 湯本 進 江戸川病院
 第8地区
 安藤俊一
 飯塚響子 東邦大学医療センター大森病院
 小野 貢 キャノン診療所
 小林 満 東京労災病院
 日高章吾 NTT東日本関東病院
 山内 栄 東邦大学医療センター大森病院
 山口友之 JR東京総合病院
 第9地区
 内田良平 板橋中央総合病院
 川口和彦 オリエンタルクリニック
 菅井美貴 池袋ロイヤルクリニック
 武井裕子 田 病院
 武藤 仁 平塚胃腸クリニック
 第10地区
 小林 豊 河北総合病院
 白髭正一 慈生会病院
 小野林可奈子 立正佼成会附属佼成病院
 村永大輔 慈生会病院
 第11地区
 脇田由佳 大森赤十字病院
 第12地区
 阿部忠敏 多摩北部医療センター
 宮永鉄也 新山手病院
 第13地区
 井村摩喜男 (有)アートメディカル
 石川雄一 青梅市立総合病院
 五十嵐真也 府中恵仁会病院
 大西尚子 コニカミノルタヘルスケア(株)
 渡辺昌恵 GEヘルスケア・ジャパン(株)
 白川清人 武蔵野陽和会病院
 瀧本輝生 東京慈恵会医科大学附属第三病院
 田村晃一 公立阿伎留病院
 立山仁美 北原脳神経外科病院
 千葉愛香 都立府中病院
 奈良由紀夫 共済組合立川病院
 西島寛人 多摩丘陵病院
 西村健吾 青梅市立総合病院
 藤澤晃稔 国分寺病院

第14地区
 鈴木尚美 小張総合病院 賛
 角田 聡 千葉県済生会習志野病院 賛
 長澤良明 みつわ台病院 賛
 第15地区
 藤田純子 新川クリニック
 第16地区
 木村祐衣 圏央人間クリニック

1) プラチナ会員動向

22年度理事会承認人数 17名

	プラチナ会員数	正会員	賛助会員
合計	17	12	5

二村 梓
 元・日本アイ・ピー・エム(株)健康管理室 第5地区
 大塚次男
 株式会社QHQ読影センター 第5地区
 須藤貞之 第14地区
 木村敏昭
 管工業健康保険組合健康管理センター 第1地区
 後藤俊英
 電通健康組合電通健康管理センター 第2地区
 黒木 浩
 元・財団法人保健同人事業団診療所 第1地区
 鍋島直隆
 元・トツパングループ健保組合健康管理室 第2地区
 斉藤忠雄
 板橋中央総合病院 第9地区
 阿部 敏
 東京都保健医療公社多摩南部地域病院 第13地区
 川 司朗
 医療法人社団秀朋会健診事業部顧問 第14地区
 鈴木清次
 東京医科大学八王子医療センター 第13地区
 二階堂武照
 元・財団法人仁和会総合病院 第13地区
 飯田敏郎
 元・川崎医療生協久地病院 第15地区
 長谷山敏幸
 新赤坂クリニック 第4地区
 松元和敏
 中島中央病院 第15地区
 小俣朝子
 馬嶋病院 第15地区
 天野善之
 東京慈恵会医科大学附属病院 第4地区

3. 会議の回数

総会2回、理事会11回、専門部理事会12回

4. 主な発行資料および文章に関する事項

- (1) 定期総会開催について
- (2) 学術講演会等講師依頼について
- (3) 広告掲載のお願いについて
- (4) 表彰候補者の推薦について
- (5) 入会案内について

5. 平成22年度物故者に関する件（敬称略）

平成22年度における物故会員は次の方々です。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

松井 孝

6. 叙勲等に関する事項（敬称略）

叙勲等に関する事項

- (1) 叙勲
該当者なし
- (2) 東京都功労者表彰（知事表彰）
該当者なし
- (3) 東京都放射線技師会表彰

【学術奨励賞】

山下素幸 東京通信病院

『拡散強調画像によるMicroscopy coil を用いた抹消神経MR Neurography の検討』

【小野賞】

- | | | |
|-------|-------|----------------|
| 第1地区 | 津村正志 | 横畠外科胃腸科病院 |
| 第2地区 | 藤田賢一 | 永寿総合病院 |
| 第4地区 | 佐藤伸一 | 南葛勤労者医療協会江東診療所 |
| 第5地区 | 若杉慶市 | トヨタ自動車株式会社 |
| 第12地区 | 佐々木輝雄 | 公立昭和病院 |

【勤続20年表彰】

- | | | |
|------|------|-------------|
| 第1地区 | 菊地克彦 | 三菱地所三菱診療所 |
| 第1地区 | 桑田広実 | 三井記念病院 |
| 第1地区 | 浅香崇夫 | 東京通信病院 |
| 第1地区 | 鈴木 守 | 東京通信病院 |
| 第3地区 | 平瀬繁男 | 東京医科大学病院 |
| 第3地区 | 土橋浩之 | 東京女子医科大学病院 |
| 第4地区 | 石田雄一 | 東京都済生会中央病院 |
| 第4地区 | 吉田康弘 | 東京脳神経センター |
| 第4地区 | 杉山勝己 | 内藤病院 |
| 第4地区 | 田島優理 | CSKクリニック |
| 第4地区 | 鶴田智司 | |
| 第5地区 | 大塚健司 | 東京大学医学部附属病院 |
| 第6地区 | 氏原英幸 | 荒川区保健所 |

- | | | |
|-------|-------|----------------|
| 第8地区 | 岡部圭吾 | 昭和大学病院 |
| 第8地区 | 石田秀樹 | 昭和大学病院 |
| 第8地区 | 芳澤康徳 | NTT東日本関東病院 |
| 第10地区 | 富澤弘至 | 立正佼成会附属佼成病院 |
| 第10地区 | 野本奈津子 | |
| 第11地区 | 柏田勝司 | 耳鼻咽喉科サージセンターちば |
| 第11地区 | 中村雄不二 | 自衛隊中央病院 |
| 第12地区 | 薄井政男 | 武蔵村山病院 |
| 第13地区 | 名古安伸 | 駒澤大学 |
| 第13地区 | 石北正則 | 青梅市立総合病院 |
| 第13地区 | 中西章仁 | 杏林大学医学部付属病院 |
| 第13地区 | 後藤拓己 | 永生病院 |
| 第13地区 | 武井泰一 | 日野市立病院 |
| 第14地区 | 内山秀彦 | 東京慈恵会医科大学附属柏病院 |
| 第14地区 | 山田浩司 | 野田中央病院 |
| 第15地区 | 今井康人 | 昭和大学診療放射線技師学校 |
| 第15地区 | 守屋克之 | 昭和大学横浜市北部病院 |

(4) 日本放射線技師会表彰

【勤続50年表彰】

- 中山 清
長谷川 光男
大槻 清孝

【勤続30年表彰】

- 石川 俊和
小澤 芳輝
石田 博英
瀧澤 代輔
住吉 一彦
新田 勝

(5) 創立60周年記念感謝状

【東京都知事感謝状】

- | | |
|-------|---------------|
| 森 俊 | 慶應大学病院 |
| 葛西 一隆 | 帝京大学医療技術学部 |
| 矢本 俊一 | 東京慈恵会医科大学附属病院 |
| 松阪誠太郎 | 新武蔵野診療所 |
| 小田 正記 | 創価大学工学部 |

【東京都福祉保健局長感謝状】

- | | |
|-------|---------------|
| 澤田 俊明 | NEC総合健診センター |
| 若杉 慶市 | トヨタ自動車東京本社診療所 |
| 竹中 輝和 | 医療法人財団慈生会野村病院 |
| 松本 清 | 駿河台日本大学病院 |
| 矢野 孝好 | 日本大学医学部附属板橋病院 |
| 篠原 健一 | 医療法人財団河北総合病院 |
| 平田 充弘 | 読売健康保険組合読売診療所 |
| 市川 重司 | 公立福生病院 |

都内避難所サーベイボランティア派遣の経緯及び経過

3月11日（金）

- ・東日本大震災発生（福島第一原発災害発生）

3月12日（土）

- ・日放技地震災害対策委員会設置

3月13日（日）

- ・日放技地震災害対策本部会議に出席
- ・日放技に対し政府（原子力安全委員会等）より被災地へのサーベイヤー派遣要請
- ・東放技地震災害対策委員会設置
- ・都内施設にGM計数管の貸与を打診
- ・被災地サーベイボランティア募集を打診

3月16日（水）

- ・日放技第1次派遣隊出発（東放技会員参加）

3月18日（金）

- ・日放技地震災害対策本部会議 近県技師会緊急招集
連休中の都内でのサーベイ活動を検討するが見送りとする

3月21日（月）

- ・都が都内施設での被災者受入れをプレス発表

3月22日（火）

- ・厚労省および都庁より技師会への協力要請
- ・中澤日放技会長と都庁訪問 都内避難所（東京ビッグサイト）の24時間体制サーベイ協力要請
- ・東放技役員/関係者へサーベイヤー募集を配信

3月24日（木）

- ・東京消防庁より東京ビッグサイト避難所のサーベイを引き継ぐ

3月25日（金）

- ・日放技第4次派遣隊出発（東放技会員参加）

4月1日（金）

- ・24時間体制を見直し、夜間は避難所消灯時間の22時までとする

4月5日（火）

- ・今後の見通し、避難者数推移等の数値を都庁と確認する
現時点では避難所の受入れ機関は4月なかばとなっており、3月21日のプレス発表以降変更無し
4月1日から、都営住宅への入居が始まっており、4日の週は避難者数の減少が見られる
現時点では、味の素スタジアムでの3,900cpmが最高値である

4月10日（日）

- ・東京ビッグサイト避難所への東放技派遣サーベイボランティアの延べ人数は、4月10日現在で100名にのぼり、今後も4月20日まで実施予定である

東京ビッグサイト避難所サーベイ派遣報告

順天堂大学医学部附属練馬病院 木暮陽介

1. はじめに

東北地方太平洋沖地震及び東京電力福島原子力発電所事故の発生に伴い、東京都は被災された方々の受け入れとともに、放射線の健康への影響に関する不安をお持ちの方に必要な検査を行う等の体制を整備することになりました。

本派遣は、厚生労働省健康局総務課地域保健室ならびに東京都福祉保健局医療政策部長より協力依頼を受けた中澤靖夫会長が、東京都内避難所において、避難住民の放射線物質による外部汚染に対するサーベイ計測の実施ならびに放射線被ばくに関する不安を軽減させることを目的とし、3月22日に東京都放射線技師会役員を介して依頼されたものです。

2. 避難所の状況

4月1日時点での東京都内の一時避難所は、東京ビッグサイト、東京武道館、味の素スタジアムとなっており、今後は東京国際フォーラム、グランドプリンスホテル赤坂等も追加される予定です。そして、東京都庁から協力依頼のあった東京ビッグサイト以外の避難所においても同様な体制ができないかと打診されています。現状では複数避難所での活動となると継続性が担保できなくなる可能性があるため、東京都放射線技師会地震災害対策委員会にて協議が続いています。

東京ビッグサイトでは、西展示ホール1Fに避難所が設けられており、24時間体制で昼間、夜間を問わず東京都庁職員40名が業務にあたっています。図1は案内看板、図2は西展示棟入口、図3・4は総合受付、図5は避難所入口を示します。



東京ビッグサイトでの収容定員(予定人数)は3000人となっていますが、3月27日16時00分現在の避難者受け入れ状況は、在所者98名(男性47名、女性51名: 37世帯、ペット3匹)となっていました。

また、東京ビッグサイトへの3月27日時点での交通事

情としては、りんかい線及び都営バスは平常通り、ゆりかもめは平常運転の4割程度、そして、自家用車の場合は1Fレセプションホール入口向かって左側に、関係者用として9台分確保されていました（図6参照）



図6：関係者用1F駐車場

西展示棟入口を入ってすぐ左側に検査所があり、パーテーションで区切られた45畳程度の部屋が待機室兼測定室となります。検査所受付には東京都庁職員が常時3名つめており、我々は待機室兼測定室にて待機することになります。図7が検査所及び待機室兼測定室の概観、図8が待機室兼測定室内を示します。



図7：検査所及び待機室兼測定室の概観



図8：待機室兼測定室内

そして、待機室兼測定室の傍には洗浄室があります。洗浄室は当初、除染室との明記でしたが、国際医療福祉大学の金場敏憲先生からの「除染室は放射線障害防止法における、汚染検査室に続く言葉として用いられることが多く、除染室という用語を使用するにはそれなりの設備と対策が必要である」という見解を受け、東京ビッグサイト施設安全部が3月28日に変更した経緯があります。洗浄室は従来の託児室を充てており、男女別の部屋には、ビニール、スウェット、タオル、下着（乳幼児含む）ドライヤが準備してあり、シャワー

はユニットバス式でボディースポンジ、石鹸、シャンプーが準備されていました（図9・10参照）



図9：洗浄室（除染室）案内看板



図10：シャワー室

我々の仮眠所は2F西1商談室（6）に関係者用として用意されており（図11参照）東京ビッグサイト内避難所近辺にはファミリーマート（8時～20時まで営業）ならびに銀行ATM、自動販売機、トイレ、ゴミ箱等も整備されていました。



図11：関係者用仮眠所

3. 派遣活動の概要

東京ビッグサイトの避難所での我々の活動は、2交代制（昼間は9時～17時、夜間は17時～翌朝9時）にて、3月24日の夜間から24時間体制で始まりました。しかし、深夜・早朝におけるサーベイ計測実績が0件と続いていることやサーベイ計測実施が避難所入所の条件ではないことの実状を鑑み、4月1日からは9時から22時までが東京都放射線技師会、22時から翌朝9時までは希望者に限り東京都庁職員が実施することになりました。

服装・靴はフォーマルでもカジュアルでも可で、準備してある東京都放射線技師会ジャンパーを羽織って活動にあたっていました（図12参照）但し、夜間の場合は防寒対策が必須となります。また、白衣（ディスプレイガウン）予防着、帽子、ディスプレイ手袋、ディスプレイ

マスクは待機室兼測定室に準備してありますが、検出されるカウントは低いので被測定者に不安を与えないよう帽子、ディスポ手袋等は着用せずサーベイ計測を行っていました。



図12：サーベイ計測風景（被測定者は派遣メンバー）

放射線に関する基礎知識、サーベイメータに関する基礎知識を事前に習得しておくことは望ましいですが、待機室兼測定室にはQ&Aや各種マニュアルも準備してあります。

避難されて来た方々の受付、利用申し込み聞き取り（被災地、被災状況、直近の避難先、氏名、性別、生年月日、年齢、本人との関係、携帯番号、緊急時連絡先等）誘導等は東京都庁職員が行ってくれます。

サーベイ計測対象者は、東京ビッグサイトに避難してきた住民の中でサーベイ計測を希望された方になりますが、希望があれば被災時住居地・滞在地に関わらず実施し、希望がなければ被災時住居地に関わりなく未検査で入所していただいています。

サーベイ計測希望者は、東京都庁職員により放射線検査・受付票（以下、サーベイ計測記録用紙）とともに待機室兼測定室に案内されてきます。サーベイ計測記録用紙は、1家族1枚の紙を使用しており、家族の氏名が記載されているので、1名ずつサーベイを行っていきます。そして、サーベイが終了したら、被測定者の方に結果をご説明するとともに、サーベイ計測記録用紙を東京都庁職員に渡します。万が一、100,000cpm（除染基準は原子力安全委員会3月20日付け通知に従い、13,000cpmから100,000cpmに変更）を超える場合は、東京都庁職員に連絡し、洗浄してもらうこととなります。また、保健師も10時から16時まで常駐しており、被災者への健康相談に対応されていました。

4. サーベイ計測の概要

サーベイメータは、東京消防庁よりautomass社製6150AD-1及びautomass社製6150AD5/H、駒澤大学・河北総合病院よりAloka社製TGS-111が3台の計5台のGM管式サーベイメータが待機室兼測定室に準備されています。automass社製ならびにAloka社製のサ

ーベイメータを図13・14にそれぞれ示します。サーベイメータはアルミキャップを外し（アルミキャップ装着時は線のみの計測）身体に触れない様に慎重に行うとともに、触れた際にはサララップを取り替えます。



図13：automass社製GM管式サーベイメータ



図14：Aloka社製GM管式サーベイメータ

3月27日のバックグラウンド値（以下、BG値）を表1に示しますが、室内、屋外（高さ1m）、土壌の順でカウントが大きくなる傾向にありました。土壌や屋外での計測においては、方位や風向き、各サーベイメータの校正により、カウントは数十cpmから100cpmの差が見受けられました。

実際のサーベイ計測手順を記載します。

サーベイメータの電源を入れ、事前に計測したBG値と比較して安定していることを確認します。

本人の氏名を確認し、これからサーベイ計測を行う旨の説明を行います。

サーベイメータを表面から1cmの距離で、手掌（左右）手背（左右）頭部 顔面 頸部 肩（左右）上肢前面（左右）胸部 腹部 下肢前面（左右）の順でサーベイ計測を行った後、今度は後ろを向いていただき、上肢後面（左右）背中 臀部 下肢後面（左右）を行い、最後に座っていただき、左右の靴裏をサーベイ計測します（約1人5～10分）

この際に、Excelシート（表2）にカウント（automass社製はcps、Aloka社製はcpmが読取り値となっています）を記入しますが、できれば計測者と記録者の2名で行うことが望ましいです。高い数値がでた部位は30秒程計測を行います。その後、引き続きサーベイを行う際にはBG値に下がるのを確認してから行います。

サーベイ計測が家族全員に対して終了したら、

Excelシートをもとに、サーベイ計測記録用紙に、最大カウント部位の数値cpm (automass社製はcps×60)と備考欄に部位(右靴裏等)を記載します。

「特に異常に高い数値はでていませんのでご安心して下さい。お疲れ様でした」や「除染となる数値は100,000cpm以上であり、様は私達と同じ数値ですのでご安心下さい」といった結果説明を被測定者に行い、東京都庁職員にサーベイ計測記録用紙を提出します。

サーベイ計測手順については、各施設によって計測部位や記録シートは異なると思いますが、重要なことは不安を煽る言動は謹むことや複数者を同時にサーベイする際には、サーベイ計測の手順をできるだけ統一して行うこと、アラーム音をOFFにすること、数値を見せながらサーベイ計測を行うことは被測定者の不安を和らげることに効果的でした。また、3月27日の昼間のサーベイ計測は13名でした。被測定者は既に避難から数日が経過していること、入浴済み、衣服の交換ならびに洗濯後などの理由から、特に高いカウントは見られませんでした。その中でも計測値が高かったのは靴(靴底)でした。

5. 派遣活動を通して

本派遣は招聘状、交通費、食事代も無くボランティアとしての派遣活動でしたが、多くの事を学ばせていただきました。学生が臨床実習にて実践を学ぶように、我々もサーベイメータの操作方法は理解していても、被災から避難してきた方々に対して、不安を取り除きながら活動にあたることは初めての経験であり大きな糧となりました。また、放射線障害防止法、外部被ばく・内部被ばく・体表面汚染、線や線の特性についてあらためて復習することもできました。

連日報道がなされている東北地方太平洋沖地震及び東京電力福島原子力発電所事故について、何か自分でも役に立つことはないかと考えている診療放射線技師はたくさんいると思います。自施設から派遣団として救急医師やメンタルクリニック医師、看護師、事務員と一緒にすでに参加している方をはじめ、災害救援活動としての義援金を寄付した方、それぞれが自分なりに考え

協力している事だと思います。東京ビッグサイト避難所サーベイ派遣もそのような思いをもった諸氏が、職場での理解のもと休暇や夜勤明けにて活動にあっています。本報告をするにあたり、3月27日に一緒に活動しました浅沼雅康氏(東京女子医大東医療センター) 江積京子氏(野村病院) 小林隆幸氏(北里研究所病院) 清水賢均氏(野村病院) 杉澤浩一氏(慶應義塾大学病院) 高橋克行氏(足立共済病院)にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。そして、この東京ビッグサイト避難所サーベイ派遣に参加されている全ての諸氏に敬意を払います。

現在も放射性物質の危険性が言葉によって一人歩きし、様々な風評被害や搬送された先の病院で「除染カードを提示してください」と言われた避難者もいらっしゃいます(厚生労働省健康局総務課地域保健室3月21日付け事務連絡では「サーベイの証明書等を発行することは、健康相談の趣旨にそぐわず、サーベイ実施施設に過剰な負担をかけるため、望ましくないと考えているので、そのように対応願います」とされています) この活動を通して、あらたて放射線の専門家の一員として、放射線被ばくに関する不安を取り除くことができる医療人として今後も微力ながら貢献していきたいと思いました。

6. 最後に

被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。そして、お亡くなりになられた皆様のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族に心からお悔やみを申し上げます。我々診療放射線技師も様々な活動を通じて、被災地域の一日も早い復興に貢献できればと思います。

測定日: 2011年3月27日 測定場所: 東京ビッグサイト

サーベイメータ機種名	測定時間	文庫	土庫	足先	室内	備考
Aloka社製TGS-111 シリアルNo.06B908	10:00	靴底	100cpm	75cpm	50cpm	アルミホイル有
	16:00	靴底	75cpm	75cpm	50cpm	アルミホイル有
Aloka社製TGS-111 シリアルNo.06B906	10:00	靴底	60cpm	75cpm	50cpm	アルミホイル有
	16:00	靴底	100cpm	80cpm	75cpm	アルミホイル有
Aloka社製TGS-111 シリアルNo.76B808	10:00	靴底	75cpm	60cpm	50cpm	アルミホイル有
	16:00	靴底	80cpm	60cpm	50cpm	アルミホイル有
automass社製B150AD-I シリアルNo.102196	10:00	靴底	100cpm	35cpm	10cpm	
	16:00	靴底	40cpm	25cpm	5cpm	
automass社製B150ADS型 シリアルNo.128736	10:00	靴底	90cpm	150cpm	5cpm	
	16:00	靴底	75cpm	25cpm	5cpm	

表1: 3月27日のバックグラウンド値

測定日: 年 月 日 時間: 夜間 No. _____

測定部位		手首		肘		胸部		背中		臀部	
右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
						上部 (個)	下部 (個)				
最大カウント部位: ()						最大カウント数: () cpm					

表2: Excelシート

福島原発事故による住民サーベイ派遣報告

公立福生病院 市川重司

平成23年3月11日14時46分に発生した宮城県沖地震により福島原子力発電所事故にて住民サーベイ任務に従事してきた。

地震発生より5日後の3月16日に（社）日本放射線技師会の召集の元、第一陣サーベイ隊として福島に向かい、6日間の予定で活動を行った。

当日は晴天で250km先で起きている状況について想定の枠を超える事態に知るすべもなく東京、浜松町の技師会事務所を12名の部隊と一路福島に向け出発した。



第一派遣隊 出発前、日放技事務所にて

東北道は緊急車両のみ通行が許されており自衛隊車輛、緊急車両が目付き緊迫した様子が伺え取られた。私が初めて担当した避難所は約1,000名の避難者がおりコンクリートの上にブルーシートを敷いて毛布等で暖を取っており、そこにはかなり厳しい現実があった。トイレは外の仮設で高齢者には段差で介助等が必要で不自由を強いられている状況であった。

食糧事情については普及していない状況で避難所によってはおにぎり1個のみの配給などというところもあり到底満足できる状況ではない。避難所は場所により環境が異なり常に言えることであるが災害時の課題が見え隠れする一面と思われた。

我々は栄養補助食品や缶詰類を持参したため困りはなかったが、「暖かいものを食べたい」などの気持ちは

あったが、現状を見ると、それ以上には欲しようとする気持ちになれなかったのは私だけではないと思う。



避難所

サーベイ方法については大まかな手技は理解していたものの、いきなり実践となった訳で頭部から始まり、四肢、体幹部と全身くまなくサーベイを行った。住民の方はほぼ全員が初めて経験することで、私は緊張をほぐす目的でなるべく話しかけながらサーベイを行った。また計測メーター（計測針）を見せながらサーベイを行うことで実際に被曝していないことを見せて納得していただきながら行った。住民は我々が考えている以上に被曝には神経質になっており、「異常ない」ということを伝えるだけでなく「異常がなく、安心していただいて結構です。」という安心感を与えることが重要で大切と考える。

測定器は1時間もするとその重さが気になるようになった。普段長時間持って使用する経験が無いので、軽い思いながらも、時間とともに重量は徐々に負担となっていった。また中腰や屈んだ姿勢が多く3、4日目になると大腿部など筋肉痛を覚える同志が増えてきた。話しながらの作業は口やのどが渴くことがあり、作業的にはかなり重労働と感じた。また会場は意外と寒い施設もあり、設置してあるストーブもあまり役に立たない状態で寒さによる疲労増加なども否めない状況であった。

住民の多くは500～1000cpmの方が多く、出発前の東京での測定レベルと比較すると高い傾向であった。6

日間でのべ5000名弱の住民を測定したが、規定以上のカウントを計測した方は数十名にのぼった。多くは衣類から検出しましたが、頭皮や手指なども検出されることもあった。洗濯、洗浄が可能な方にはお願いして、避難により難しい方は担当者に衣類の替え、シャワー等の手配をお願いした。最終日には自主避難を行わず、自衛隊捜索隊に発見、引率されてきた方々があり、やはり高カウント数(70,000cpm)で除染の指導となった。中にはシャワー等でもカウントが下がらず再度シャワーを行うケースもあった。またペットや野菜の計測を希望する方もあり、放射能に対する不安感は想像以上と思われる。

我々は住民の放射線被曝という不安を払拭する任務と環境の放射能測定も行った。郡山市内は原発より50km近く離れているのにも関わらず、道路上で20,000

~50,000cpmを計測することもあり、地域によりかなりの開きがあり、原発からの距離には関係しないようである。これは風の向きと地形の変化が影響されていることと考えられる。



サーベイの様子

今回の派遣は第一陣として任務にあたった12名が無事に東京に戻るというのも大きな目的で事故、体調変化などもなく帰還できたのは成果の一つと考える。

自分としては診療放射線技師として日々、国民医療のために取り組み、向き合い、業務を遂行してきているが、今回の経験は別次元ではあるものの根底は国民のために取り組み、向き合った6日間であったと思われる。今後1日も早い終息、そして復興につながっていくことを願う次第です。



筆者

大地震・震災の名称について

4月1日の閣僚会議で今回の震災の名称を「東日本大震災」と決定されましたが、本誌掲載記事は震災後の混乱のなかに執筆して頂きましたので、地震・震災の名称が統一されておりません。

なにとぞご理解いただきますようお願いいたします。

◆◆◆◆◆ イエローケーキ ◆◆◆◆◆

端午の節句とは奈良時代頃から行われている古い行事です。

端午とは、月の端(はじめ)の午(うま)の日という意味ですが、五月が午の月であり、午の日が五の日に通じ、奇数が重なっておめでたい重五(ちようご)の日なので、五月五日のことになったようです。

菖蒲や蓬などの香りの強いものが、病気や厄難などの邪気を祓うとされ、菖蒲で屋根を葺いたり、菖蒲の薬玉を飾ったり、菖蒲酒を飲んだり、菖蒲湯に浸かったりする風習が中国から日本に伝わり、平安時代には端午の節会(せちえ)という宮廷行事になりました。

鎌倉時代には宮廷の行事が衰えますが、武家の間から菖蒲と勝負・尚武とかけてこの日を大切にすると、民間でも菖蒲湯・菖蒲酒・菖蒲枕など菖蒲に関する風習が盛んになりました。

江戸時代の武家社会では、幕府の五節句に定められ、将軍に世継ぎが生まれると城中に幟(のぼり)や作り物の槍・薙刀(なぎなた)・兜などを立てて祝いました。民間でもこうした風習をまねて、初節句には厚紙で作った兜などを屋外に飾るようになります。

江戸時代中期頃からは、町人あいだでは武家の幟に対抗して吹流しを飾るようになり、やがて鯉のぼりへと発展し次第に大きくなっていきました。

明治時代に入ると、新政府の方針でそれまでの節句行事が廃止され端午の節句も一時衰えましたが、昭和23年にこどもの日が制定され現在に至ります。

5月5日には、菖蒲の葉を水から入れて沸かした菖蒲湯にゆっくり浸かりたいものです。

<からも>

第5地区のつどい スモールグループディスカッション(SGD)に参加して

東京健生病院 鈴木正晴

平成23年2月25日(金)に東京都放射線技師会研修センターにおいて第5地区のつどいが開催されました。5地区で活躍されている会員を中心に、最近の学会等で発表された演題の再演をお願いし、会員相互の情報交換と交流を目的として行われているものです。今回は32名もの方に参加していただきディスカッションすることができました。誠に有難うございます。

演題1 3D構築を目的とした腹部ダイナミックCT撮影法の検討

順天堂大学医学部附属順天堂医院 高野 直 氏

演題2 Large Displayの使用経験

東京大学医学部附属病院 村山嘉隆 氏

演題3 心筋遅延造影MRIにおけるT1 scout像(look-locker)とIR-T1 TFE法とのnull pointの整合性について

日本医科大学付属病院 小川匡史 氏

演題4 Q-ball tractographyを用いた皮質延髄路描出

東京大学医学部附属病院 鈴木雄一 氏

講演は4人の5地区会員の方をお願いいたしました。

どの演題も、より質の高い医療を提供するために新たな方法を検討し、現状を評価するという大変興味深い内容でした。同じ機器を扱ったとしても、技師の技量の違いで同様の質の医療を患者に届けられないのは、医療を受ける患者にとって大きな不利益となります。なので、今後もこういった発表の場や情報交換ができる場を通して、多くの放射線技師が技術の共有をしていくと共に、私も切磋琢磨していければ幸いです。参加者の中には順天堂医院への実習生5名の姿もありました。諸先輩方の発表を見て、聞いて、多くの事を感じ取ってもらえたのではないかと思います。また私自身、このような発表の場で僥越ながら初めて進行役を務めさせて頂きました。不慣れな点も多く、ぎこちない進行ではありましたが、周囲の方のバックアップもあり何とか務めることができました。今後またこのような機会があった際には、先輩方から頂いたアドバイスを活かして、よりスムーズに行いたいと思います。

最後にこのたびの5地区のつどいを開催するにあたり、準備に携わった方々、貴重な演題発表をしていただいた先生方、本当にありがとうございました。



第9回ペイシエントケア学術大会開催される

聖路加国際病院 柴山豊喜

平成23年3月5日(土)「第60回東京都放射線技師会定期総会」開催に先立ち「第9回ペイシエントケア学術大会」が開催されました。最初に教育部からの報告「日暮里塾ワンコインセミナー発足のご紹介」があり、引き続きシンポジウムが行われました。

今回のシンポジウムのテーマは「高齢者への対応」-安全な看護・検査・投薬-で、まず職種の異なる3人の先生にご講演を頂きその後パネルディスカッションに入ると言う流れで進みました。内容は、

1. 看護師の取り組み 「生活を支える看護」 医療法人社団慶成会 青梅慶友病院 桑田美代子先生
 2. 薬剤師の取り組み 「高齢者に対するファーマシューティカルケア」 日本医科大学付属病院 富山弘野先生
 3. 診療放射線技師の取り組み 「理想の高齢者撮影業務について」 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター 木村聡先生
- 以上のようなご講演を頂きました。



桑田先生からは高齢者、特に85歳～90歳以上の超高齢者への心身両面に対するケアの重要性、またチーム医療の視点に立った診療放射線技師の役割について先生と同じ職場に働いている放射線技師の的確なケアを例にだされて我々放射線技師にエールを送って頂きました。富山先生には高齢者への投薬説明の難しさ、また高齢者の薬剤効果の薬理学的特性についてお話を頂きました。木村先生からは我々診療放射線技師が通常

業務の中で感じている高齢者ケアの難しさを率直な言葉でお聞きすることができました。

シンポジウム後半のパネルディスカッションにおいては、会場より、個人的な質問であるがとの前置きで、60歳を超えた自分自身の事、また90歳代の自分の親への精神的ケアの方法、適切な薬物療法についての相談が発言され会場全体が高齢者への対応をわが身の事として一体感を持って考える良い機会となりました。

その後ランチョンセミナーとして、株式会社日立メディコより「高齢者への検査に配慮したX線装置について」、テルモ株式会社からは「造影剤腎症について」の話題提供がありました。

本学術大会の締めくくりとして、特別講演を(社)日本画像システム工業会(JIRA)経済部会 部会長野口雄司先生より「平成24年・26年度診療報酬改定に向けての論点」としてご講演いただきました。野口先生のご講演では今後の診療報酬改定に当たって医療安全を担保する医療機器および画像の精度管理の重要性がますます増してゆく事が強調されていました。我々も日々それらに関する研鑽を積んでゆく必要性を強く感じました。

患者さんのための学術大会として始まった「ペイシエントケア学術大会」も今回で9回目となりました。毎年学術部により的確なテーマ設定で開催されてきましたが、今年は「高齢者」をテーマとして開催されました。日本全体が超高齢化に向かっていくなかで、医療の現場でも本格的に議論をされなければいけない問題であるのに、なかなかとりあげられることのなかったテーマによくスポットライトを当ててくれたと、会場からの声もありました。まさに期を捉えた今回の学術大会であり、活発な議論も交わされて、例年同様に盛会裡に閉幕致しました。(編集部幹事)



富士フイルム デジタルX線画像診断装置

無線対応の新製品

富士フイルムは4月下旬、体を通過したエックス線を直接画像に変換するデジタルエックス線画像診断装置（DR）の新製品で、無線に対応する新製品「カルネオCワイヤレス」（写真）を、富士フイルムメディカルを通じて発売する。撮影用途に応じて有線への切り替えも1秒ででき、利便性を高めた。標準規格に準拠した大きさ（横38.4センチメートル、縦46センチメートル）のため、フィルムなどに対応した既存の撮影台にそのまま装着して利用できる。X線照射面側から光信号を読み取る独自方式の採用により、光の拡散を抑えることを通じてX線変換効率を向上。少ないX線量でもシャープな画質を得られるようにしたという。（3.15日経産業）



医療関係者向け電子辞書 / セイコーインスツル セイコーインスツルは医療関係者向けのコンテンツを充実させた電子辞書「PASORAMASR-A10003」（写真）を3月中旬に発売する。医学略語辞典や医学英語などの医学書に加え、自然科学系の専門用語集や英語能力テスト対策集などをそろえた。世界100か国以上で使われている「ステッドマン医学大辞典 改訂第6版」や、情報量が多く充実した医学書として知られる「医学書院医学大辞典 第2版」を収録。さらに後発薬を含むほぼすべての医療用医薬品の情報を集めた「治療薬マニュアル2010」も入れた。電子辞書とパソコンを接続し、医学関連のカラー図版をパソコン画面で大きく表示できるほか、インターネットに接続して外部サイトで言葉を調べられる機能も備えた。（2.22日経産業）



「幹細胞の事前採取を」作業員大量被曝に備え専門家が提言 福島第1原発の作業員らが全身に大量被曝をして「造血幹細胞移植」が必要になるような不測の事態に備え、作業員自身の造血幹細胞をあらかじめ採取して冷凍保存しておくよう、専門医が提言している。移植の際、免疫拒絶反応を防ぎ治療の可能性を高めるためだ。虎の門病院（東京・港区）の谷口修一・血液内科部長によると、原発事故を巡り事前採取が行われた事例は世界的にもないが、「命がけて作業にあたる人たちを守るために行うべきだ」と訴える。同部長は今回の事故を受け、造血幹細胞の採取にかかる期間が従来（4～5日）の半分程度で済む未承認薬の輸入を計画している。東京電力は、今回の事故で、作業員の幹細胞の事前採取は「行っていない」としている。全身に大量の放射線を浴びると、血液を作る骨髄の細胞（造血幹細胞）が破壊され、死に至ることもある。治療には、骨髄や血液から取った幹細胞を移植するのが有効だ。だが、他人の幹細胞を使うと拒絶反応が起きて臓器が傷害され、それによって命を落とすことがある。1999年に茨城県東海村で起きた事故で、大量被曝後に死亡した作業員の治療にあたった自治医大さいたま医療センターの神田善伸教授（血液科）は「他人の幹細胞移植で拒絶反応が起きたことも治療を困難にした一因」としている。（3.27読売）

富士フィルム乳がん診断を支援 / 「デジタルマンモグラフィCAD MV-SR 657EG」 高精細の乳がん検査用デジタルX線装置で撮影した画像を細かく区分し、乳がんの特徴を示す領域を自動的に検出。腫瘍は矢印で、微小石灰化の部位は四角で囲って表示する。乳がんの特徴を検出するアルゴリズムを最適化することで、誤検出率を下げた。画素の一边が50マイクロ（マイクロは100万分の1）メートルの高精細デジタルX線装置「AMULET」にも対応している。乳がん検診受診者の増加が見込まれるなか、医師の診断を支援する。（3.7日経産業）

診断医の負担軽減、自宅で簡単操作 病院に常駐不要 / タブレット端末用画像ソフト 画像診断装置販売のP・S・P（東京・港）は画像診断医が自宅で手軽に利用できるタブレット端末向けソフトを開発した。画像診断医が病院に24時間体制で常駐する必要がなくなる。画像診断医の夜間勤務負担を軽減し、病院経営のコスト減につながれると期待する。新ソフトは指2本を広げたり、狭めたりすることで画像を拡大・縮小できるほか、色調を変えたり、白黒を反転したりできる。米アップルの多機能携帯端末「iPad」など直感的な操作ができるタッチパネル付きタブレット端末の特徴を生かした。個人情報の安全性を保つため、ソフトやデータをネットワーク経由で提供する「クラウドコンピューティング」を使い、データは端末には保存できない。毎回、病院にある画像情報に接続して閲覧する方式を採用した。在宅で画像診断するためのソフトは従来もあったが、操作性の面などで課題があったという。（2.9日経産業）



学術講演会・研修会等の開催予定

日時、会場等詳細につきましては、会誌にてご案内しますので必ず確認してください。

平成23年度

1. 学術研修会
 - 第10回サマーセミナー
 - 第10回ウインターセミナー
 - 第14回メディカルマネジメント研修会
2. きめこまかな生涯教育

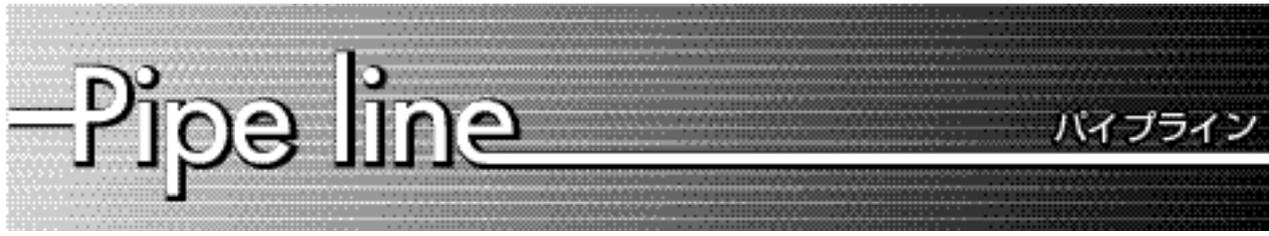
第43回きめこまかな生涯教育	平成23年6月8日（水）～10日（金）
第44回きめこまかな生涯教育	平成23年10月 3日間
第45回きめこまかな生涯教育	平成24年2月 3日間
3. 支部研修会
 - 城東・城西・城南・城北・多摩支部研修会
4. 地区研修会
5. 第10回パيشェントケア学術大会
6. 第11回東放技東京部会合同学術講演会

第61回定期（決算）総会 平成23年5月28日（土）

関連団体

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 第27回日本放射線技師総合学術大会 | 平成23年9月16日（金）～18日（日） |
| 平成23年度関東甲信越放射線技師学術大会 | 平成23年10月15日（土）16日（日） |

印は新卒新入会員無料招待企画です



中央医療技術専門学校卒業生の皆さまへ

第28回中央医療技術専門学校同窓会総会・中央放射線学会のご案内

日 時：平成23年6月25日（土）14時30分～19時30分
 会 場：中央医療技術専門学校3号館 視聴覚教室
 参 加 費：学会費無料、懇親会費1,000円（今春新卒者無料）
 同窓生の皆さまの参加をお待ちしております。

プログラム

1. 同窓会総会 14時30分～15時00分
2. 学術大会 15時00分～17時20分
 - ・同窓会員研究発表
 - ・教育講演
3. 懇親会 17時30分～19時30分
 懇親会会場 葛飾区勤労者福祉会館

中央放射線学会演題募集の件

同窓会員の研究発表を募集いたします。
 自薦、他薦は問いません。下記のメールアドレスに連絡ください。
 こちらから案内させていただきます。
 担当 布施章 akiraf@jikei.ac.jp

第61回(社)東京都放射線技師会定期総会 準備委員名簿

実行委員長：石田秀樹

副委員長：野口幸作 浅沼雅康 市川重司

経 理：関 真一 関 良充 矢野孝好 横田 光 安宅里見 人見謙二

来 客 係：大室正巳 高坂知靖 江田哲男 森 俊 西岡尚美

受 付 係：眞田鮎子 山田和孝 石上信雄 橋潤一郎 小野口敦 岡部博之 田川雅人
 出島 毅 飯島利幸 大地直之 千葉利昭 篠田 浩 川崎政士 高林正人
 原子 満 工藤年男

書記写真記録係：内藤哲也 岩井譜憲 森 美加 中谷 麗 浅野 幸 柴山豊喜 平田充弘

会 場 係：岡部圭吾 高瀬 正 宮負敬子 雨宮広明

採 決 係：高野修彰 松田紗代子

総会運営委員：粟屋浩介 湯浅仁博 壬生慎治 中西雄一 今野重光 鈴木 晋 宮谷勝巳
 芦田哲也

資格審査委員：細田直樹 松本 亘 中村浩英 横井 悟 沖田和之 諸岡達朗 柏倉賢一
 丸山雅裕

News

5月号

日時：平成23年3月3日(木)
午後6時45分～午後8時10分
場所：東京都放射線技師会事務所

議事

1) 監督官庁指導に基づく「理事会推薦監事」の件

・理事会は、監査監事に税理士・佐藤清榮さんを推薦します。【全会一致で承認】

2) 学術奨励賞の件

・学術奨励賞は、「末梢血管における非造影MRIの検討」～脂肪抑制法を併用した高速SE法を用いた末梢血管描出～昭和大学病院の野崎武さんに決定した。【全会一致で承認】

3) 新入会員の件

・【全会一致で承認】

4) その他(平成23年度スローガンの件)

平成23年度スローガンは、
チーム医療の推進
地球環境と調和した画像診断技術の向上
生涯教育・専門教育の推進
【全会一致で承認】

報告・連絡事項

1) 専門部報告

総務

・第60回定期総会は、3月5日(土) 14時30分から信濃町・東医健保会館で行います。17時より信濃町にて情報交換会を行います。
・平成23年度第1回理事会は、JRCの関係で4月6日(水)に開催します。曜日に注意して下さい。

経理

・地区活性化資金の収支・残金の報告を3月23日までにお願致します。

渉外

・小野賞は、第1・3・5・10・12地区から1名ずつ5名が推薦されています。20年勤続表彰について、現在12名が推薦されています。

編集

・今月発行された東京都放射線技師会誌に一部乱丁がありました。各地区で連絡があった際は、交換致しますので事務所の方へ連絡するように伝えて下さい。また、ペイシエントケア学術大会の冊子にも乱丁が見られるため、乱丁の連絡があった際は、交換の対応を致します。

学術

・第9回ペイシエントケア学術大会は、会場が信濃町・東医健保会館ですので注意して下さい。また、開始時刻が例年より30分早い(9:30開会)ので宜しくお願い致します。

広報

・4月3日(日)に、日比谷公園でピンクリボンイベントが開催されます。5月15日(日)に、新宿西口の新宿広場で看護フェスタが開催される予定です。

福利調査部

・今年度のアンケート調査を3月号会誌に掲載しました。

庶務

・役員の退任届けの提出を、自署・押印にてお願い致します。

2) 委員会報告

定款諸規定委員会

・3月2日に、都庁へ2度目の公益法人認定における書類を申請しました。都庁より訂正箇所として、公益法人の目的は1つにまとめること。資格に関するものその他の事業 とすること。提出した際のその他の事業 とをまとめて、その他の事業 とすること。総会の開催について、2ヶ月以内から3ヶ月以内に変更すること。以上が指摘がありました。今後は、役員の報酬について規定を設ける必要があり、作成を行い4月または5月に報告します。

ホームページ委員会

・3月26日にホームページのサーバーを移行します。影響として、2～3時間、東京都放射線技師会ホームページが見られなくなります。その間は、直接URL(<http://www.tart.jp/>)の入力をお願いします。
・東京都放射線技師会ホームページを4月から運用します。ホームページについて御意見等ありましたら連絡お願い致します。

3) 地区質問、意見に関する事項

第13地区

・技師会のホームページに支部研修会のお知らせが掲載されていなかった。
申し訳ありませんでした。
・今まで支部研修会には、執行部の方が参加をして頂いていましたが、今回は執行部の方が参加頂けませんでした。今後は、執行部の方が参加して頂けないのでしょうか。参加するように致します。
・東京放射線に掲載されているサブノートなどを、冊子化して欲しい。
「骨・関節を診るサブノート」吉田先生については、出版社から発行される予定です。また、乳腺病理・MRIについて今後検討していきます。意見等ありましたら連絡お願い致します。

4) 今後の予定(総務理事)

3月3日(木): 第11回理事会

3月5日(土): 第9回ペイシエントケア学術大会・第60回定期総会

3月16日(水): 第11回五役会

3月20日(日): 日暮里駅前清掃ボランティア活動(第5地区)

3月31日(木): 第12回専門部理事会

4月6日(水): 平成23年度第1回理事会(拡大)

平成23年3月期 会員動向

総会員数		正会員							賛助会員					
年月	月末数	会員数	新入	転入	転出	退会	繰出・入	会員数	新入	転入	転出	退会	繰出・入	
21年度集計	2,008	1,797	93	17	8	264	-4・+5	211			4	15	+4・-5	
H22.4	2,027	1,817	22	7	4	4	-1	210			2		1	
H22.5	2,035	1,825	10		1	1		210						
H22.6	2,052	1,844	22		2	3	2	208					-2	
H22.7	2,063	1,854	10	1			-1	209					1	
H22.8	2,063	1,855	3	1	2	1		208				1		
H22.9	2,066	1,858	2	2	1			208						
H22.10	2,072	1,864	5	2		1		208						
H22.11	2,073	1,866	3			2	1	207					-1	
H22.12	2,072	1,864	4			3	-3	208				2	3	
H23.1	2,070	1,862	1	1	2	2	-1 1	208				1	1 -1	
H23.2	2,072	1,861	1	1			-3	211					3	
H23.3	1,969	1,767		4	4	94		202			3	6		

3月期 転入	(4名)	藤原 篤史	ふじの温泉病院	18地区
		福地 有希	南多摩病院	13地区
		三登 将平	北原脳神経外科病院	13地区
		鈴木 光昭	八王子医療利権所	13地区
転出	(7名)	寿福有由美	→ 神奈川県へ	15地区 賛
		石川由美子	新宿海上ビル診療所 → 茨城県へ	3地区
		富永 信也	自衛隊中央病院 → 熊本県へ	11地区
		中野 善郎	自衛隊中央病院 → 京都府へ	11地区
		吉田 浩子	→ 静岡県へ	14地区 賛
		正木 伸	青葉レントゲン診療所 → 福島県へ	1地区
		野中麻里重	浅井病院 → 千葉県へ	14地区 賛
退会	(35名)	阿部 光夫	日本医科大学付属病院	5地区
		蛸子 仁	東京衛生病院	10地区
		青木 邦夫	麻布病院	4地区
		後藤 鉄郎	横河電気診療センター	13地区
		折原 隆	東京大学医学部付属病院	5地区
		栗石 武士	守田内科医院	16地区 賛
		佐藤嘉三郎		15地区 賛
		橋本 廣信	東京慈恵会医科大学付属病院	4地区
		斉藤 朝子	三菱商事診療所	1地区
		古田 榮	国立西新潟中央病院	地区
		榎橋 順治	大橋病院	5地区
		伊藤 文	多摩丘陵病院	13地区
		河合 信幸	東京女子医科大学東医療センター	6地区
		橋本 登夫	三葉病院	1地区
		藤井 謙三	北小岩整形外科	7地区
		角田 しずか	立川中央病院	13地区
		駒崎 明	金地病院	5地区
		榎 幹夫	管工業健康保険組合	1地区
		保田 定永	NTT東日本関東病院	8地区
		沼田 鶴松		13地区
		下村 純高	関東信用組合健康保険組合	2地区
		盛 伸二	公立昭和病院	13地区
		桑原 尚俊	フィリップスエレクトロニクスジャパン	4地区
		平林 明	町谷原病院	13地区
		佐藤 香織	シーメンス・ジャパン (株)	8地区
		鈴木 梨香	津田総合病院	8地区
		青田 裕美子	城東社会保険病院	7地区
		福崎 昭信	自衛隊中央病院診療放射線技師養成所	11地区
		戸澤 光行	東邦大学医学部付属佐倉病院	14地区
		久米田暢行	日本医科大学付属多摩永山病院	13地区
		少路 康	日本赤十字社医療センター	4地区
		平良 茂	日本生命保険 (相) 東京健康管理所	1地区
		井上 純成	東邦大学医療センター大森病院	8地区
		鶴田 一	国際医療福祉大学クリニック	16地区 賛
		浜松 正道	明治安田生命新宿健診センター	3地区

会費滞納	(62名)	安藤 俊一		8地区
		阿部 忠敏	多摩北部医療センター	12地区
		岩田 正	国立印刷局 東京病院	5地区
		井村 康寿男	(有) アートメディカル	13地区
		井原 裕輔	高橋医院	6地区
		飯塚 響子	東邦大学医療センター大森病院	8地区
		石川 雄一	青梅市立総合病院	13地区
		五十嵐 真也	府中聖仁会総合病院	13地区
		伊藤 博康	メディックサイト(株)	2地区
		内田 昌平	板橋中央総合病院	9地区
		宇津野 俊充	国立がんセンター中央病院	2地区
		遠藤 吉宗	虎の門病院	4地区
		小野 貢	キャノン診療所	8地区
		鈴木 尚美	小張総合病院	14地区 賛
		大西 尚子	コニカミノルタヘルスケア(株)	13地区
		大竹 和貴	社会保険中央総合病院	3地区
		川江 大一	江東病院	7地区
		川口 和彦	オリエンタルクリニック	9地区
		北尾 正人	亀戸南口クリニック	7地区
		木村 祐衣	團中央間クリニック	16地区
		小林 満	東京労災病院	8地区
		小林 豊	河北総合病院	10地区
		小森 直也	新葛飾病院	6地区
		柴多 良孝	大日本印刷メディカルセンター	3地区
		渡辺 昌恵	GEヘルスケア・ジャパン(株)	13地区
		庄司 友和	東京慈恵会医科大学附属病院	4地区
		白髭 正一	慈生会病院	10地区
		白川 清人	武蔵野徳和会病院	13地区
		杉山 哉子	渋谷区保健所	4地区
		杉浦 勇樹	多摩相互病院	6地区
		曾井 美貴	池袋ロイヤルクリニック	9地区
		瀧本 輝生	東京慈恵会医科大学附属第三病院	13地区
		田村 晃一	公立阿波留病院	13地区
		武井 裕子	田崎病院	9地区
		立山 仁美	北原脳神経外科病院	13地区
		千葉 愛香	都立府中病院	13地区
		角田 聡	千葉県済生会習志野病院	14地区 賛
		河田 賢一	社会保険中央総合病院	3地区
		長澤 良明	みつわ台病院	14地区 賛
		奈良由紀夫	共済総合立川病院	13地区
		西島 寛人	多摩丘陵病院	13地区
		西村 健吾	青梅市立総合病院	13地区
		花村 武史	東京女子医科大学病院	3地区
		日高 章香	NTT東日本関東病院	8地区
		藤澤 晃裕	国分寺病院	13地区
		藤田 純子	新川クリニック	15地区
		松下 隆一	江戸川区医師会医療検査センター	7地区
		小野林可奈子	立正佼成会附属佼成病院	10地区
		宮永 鉄也	新山手病院	12地区
		武藤 仁	平塚青葉クリニック	9地区
		村永 大輔	慈生会病院	10地区
		百地 佳代	南青山プレストピアクリニック	4地区
		山内 栄	東邦大学医療センター大森病院	8地区
		山口 友之	JR東京総合病院	8地区
		矢嶋 俊一		6地区
		山口 司	王子病院	5地区
		木戸 真子	富坂診療所	5地区
		湯本 進	江戸川病院	7地区
		湯田 亮	西新井病院	6地区
		吉沢 進	名倉病院	6地区
		吉田 陽子	新日本製薬株式会社	1地区
		脇田 由佳	大森赤十字病院	11地区

Postscript

3 月11日の東日本太平洋大地震以降、私たちの身の回りでは大なり小なりと様々なことに変化をもたらしました。

私事ですが、この春より息子が親元を離れ、栃木の高校に入学し寮生活を始めました。ただでさえ早くからの一人暮らしに不安を抱いたところに今回の大地震でした。加えて地震・津波の被害で福島原発問題が重なった中、東京から福島への距離が近くなる栃木へ行くことに本人も不安があるようでした。

親として、自分で決めた目標に少しでも近づけるように頑張してほしいとの願いと、放射線に対して多少なりとも知見のある身として「心配ないよ」と「風評や間違った情報に惑わされないように」との助言をして、下野国(しもつけのくに)へ送り出した今年の春でした。 < tenai >

3 月11日の地震からはや2ヶ月が過ぎようとしている。日本中のダメージはこのほか深く、被災地は

今も余震に悩まされる日々が続いている。おそらく今まで誰も経験したことのない状況に皆閉口し、絶望すら感じ、日本中が閉塞感に包まれている。

予定されていたイベント、催事が自粛・中止となるな言葉が発した人がいる。

「花見をしてください」

被災地のことを思うと何を言っているのだろうと思う方もいるだろう。この発言は岩手県で造り酒屋を営んでいる方のものだ。

「自粛するのではなくぜひ花見をしてほしい」

花見をすることでお酒の需要が増え、結果雇用が生まれる。被災した方が働ける場を少しでも提供できたらとの思いからの発言だ。

被災地の方々のことを思うと、自分たちだけ楽しんでよいのかと自問してしまうところもあるが、個々の消費も被災地のためにできるひとつだ。

節約するのは電気だけにしよう。

< でんこ >

■ 広告掲載社

東芝メディカルシステムズ(株)

富士フイルムメディカル(株)

コニカミノルタヘルスケア(株)

(株)鳥津製作所

医療科学社

シーメンス・ジャパン(株)

(株)日立メディコ

東京放射線 第58巻 第5号

平成23年 4月25日 印刷(毎月1回1日発行)

平成23年 5月1日 発行

発行所 東京都荒川区西日暮里二丁目22番1 ステーションプラザタワー505号

〒116-0013 社団法人 東京都放射線技師会

発行人 社団法人 東京都放射線技師会

会長 篠原 健一

編集代表 浅沼 雅康

振替口座 00190-0-112644

電話 東京(03)3806-7724 <http://www.tart.jp/>

事務所 執務時間 月~水 9:30~17:00 木・金 13:30~17:00

案内 ただし土曜・日曜・休日・祭日および12月29日~1月4日までは執務いたしません

電話・FAX 東京(03)3806-7724

編集スタッフ

浅沼雅康

内藤哲也

岩井譜憲

森 美加

中谷 麗

浅野 幸

柴山豊喜

平田充弘

(社)東京都放射線技師会 研修会等申込書

ふりがな	生年月日	日放技会員番号
氏名	男・女	年 月 日
〒 現住所		
TEL		FAX
勤務先	第	地区
〒 勤務先住所		
TEL		FAX
参加 申込	<u>第 回</u> <u>に参加します</u>	
期 間	平成	年 月 日 () ~ 月 日 ()
備 考	E-mail :	
連絡先	現住所・所属先	その他 ()

通 信 欄

<p style="text-align: right;">自由なご意見・ご要望をお寄せください。</p>

送り先FAX: 03-3806-7724